大学図書館の学生協働交流シンポジウム（第3回）

報告書

私たちの手でつくり出す図書館の形
―人を惹きつける空間を目指して―

島根大学　2013.9.5-9.6

学生協働交流シンポジウム実行委員会

大学図書館の学生協働交流シンポジウム（第３回）

私たちの手でつくり出す図書館の形―人を惹きつける空間を目指して―

はじめに

大学図書館は、学習や教育のための学内の基盤施設であるとともに、豊かな読書生活を育み、また、友人との交流の場としての活用をとおして、学生生活を豊かにすることのできる施設です。近年、大学図書館を活動場所としてサポート活動やサービス改善の活動を行う学生協働スタッフが各大学で様々な取組みを展開しています。大学図書館の学生協働シンポジウムは、各地の大学図書館で活動する学生協働スタッフが集い、活動状況を共有し、交流することをとおして、それぞれの大学でのより発展的な活動に結び付けることを目的として 2011（平成 23）年度から開催しているものです。

第３回目となる 2013（平成 25）年度のシンポジウムは、「私たちの手でつくり出す図書館の形―人を惹きつける空間を目指して―」をテーマに、島根大学を会場に開催しました。本報告書は、シンポジウムの概要を報告するとともに、アンケート結果をもとに実施状況の評価を行ったものです。この報告書が本シンポジウムの今後の発展に資するとともに、他地区において同種のシンポジウムを企画される際の参考となれば幸いです。

本シンポジウムの動画及びプレゼン資料は、山口大学図書館の次のサイトに掲載されていますのでご参照ください。

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/LA/sympo2013/

目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・ １

１　プログラム ・・・・・・・・・・・・・・ ２

Photo Album ・・・・・・・・・・・・・・ ４

２　開催概要 ・・・・・・・・・・・・・・ ８

３　実施状況の評価 ・・・・・・・・・・・・・・１１

４　アンケート結果 ・・・・・・・・・・・・・・１５

1　プログラム

大学図書館の学生協働交流シンポジウム（第３回）

「私たちの手でつくり出す図書館の形―人を惹きつける空間を目指して―」

■開催日程・会場

〇開催日：　2013 年 9 月 5 日（木）～　9 月 6 日（金）
〇会　場：　島根大学　大学ホールほか

■プログラム

第１日目

13:00-13:10　**開会挨拶**　小林祥泰島根大学長

13:10-13:50　**基調講演**　大阪芸術大学図書館　課長　多賀谷津也子
「学生目線でつくる新しい図書館の形」

13:50-13:55　質疑応答

13:55-14:25　**基調報告**　筑波大学附属図書館　ラーニングアドバイザー
秋山茉莉花・佐藤良太
「ラーニング・スクエアにおける学習支援活動」

14:25-14:30　質疑応答

14:30-14:45　**休憩**

14:45-16:15　**〈セッション１〉テーマ：学生目線でつくる新しい図書館の形**

14:45-15:00　報告１　島根県立大学松江キャンパス図書館
15:00-15:15　報告２　山口大学図書館
15:15-15:30　報告３　島根県立大学浜田キャンパスメディアセンター
15:30-15:45　報告４　梅光学院大学図書館
15:45-16:00　報告５　徳島大学附属図書館
16:00-16:15　報告６　お茶の水女子大学
16:15-16:25　質疑応答

16:25-16:40　**休憩（会場移動）**

16:40-17:10　**〈セッション２〉ポスターセッション**

大阪芸術大学／徳島大学／美作大学／愛媛大学／お茶の水女子大学／島根大学

17:15-17:50　**施設見学**　島根大学附属図書館
18:00-20:00　**交流会**

第２日目

9:00-9:40　**〈セッション３〉テーマ：ピアサポートがつくる新しい図書館の形**

9:00- 9:15　報告７　　島根大学附属図書館
9:15- 9:25　質疑応答

＊愛媛大学図書館の図書館サポーターはセッション３で発表予定だったが、大雨のための交通機関マヒのため欠席となった。

9:25-11:40　**〈セッション４〉図書館カフェ　（ワールド・カフェ）**
テーマ：　人を惹きつける図書館をつくるためにあなたは何をしますか？

9:25- 9:45　　趣旨説明
9:45-10:00　会場移動
10:00-11:30　図書館カフェ
10:00-10:25　第１ラウンド（25 分）
10:25-10:50　第２ラウンド（25 分）
10:50-11:15　第３ラウンド（25 分）
11:15-11:40　全体会（25 分）

11:40-11:50　**講評**
閉会挨拶

11:50-12:00　集合写真（図書館玄関前）

12:00-13:00　**昼食**

13:00-14:00　**施設見学（自由参加）**
島根県立大学おはなしレストランライブラリー

■主催／後援

（１）主催
○学生協働交流シンポジウム実行委員会
○山口大学図書館／山口大学学生支援センター
○梅光学院大学図書館／梅光学院大学学生支援センター
○島根県立大学メディアセンター
○島根大学附属図書館／島根大学教育開発センター
（２）後援
山口県大学図書館協議会／島根県大学・高等専門学校図書館協議会

※本事業は、文部科学省の平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業として採択された「大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソーシャルラーニング」の支援により実施するものです。

第1日目

Photo Album

学長挨拶でキックオフ

多賀谷氏の基調講演

秋山・佐藤両氏の基調報告

会場の立看板

セッション1

島根県立大学松江キャンパス図書館

山口大学図書館

島根県立大学浜田キャンパス
メディアセンター

梅光学院大学図書館

Photo Album

徳島大学附属図書館

お茶の水女子大学附属図書館

セッション2

ポスターセッションの様子

ポスターセッションの様子

施設見学

島根大学附属図書館

島根大学図書館コンシェルジュの案内で館内ツアー

交流会

1日目の最後は交流会でしめくくり

第2日目

Photo Album

セッション3

島根大学附属図書館

活発に質疑応答

セッション4

ワールドカフェ　どのテーブルでも対話が深まりました

話し合った内容を全体会で共有

Photo Album

講評

司会進行で講評の始まり

多賀谷氏による全体を通しての講評

全員で記念撮影

施設見学

島根県立大学おはなしレストランライブラリー

おはなしゼミの学生の皆さんによる読み聞かせ

２　開催概要

第１日目

第１日目の９月５日、島根大学の大学ホールを会場にして、小林祥泰学長の開会あいさつに続いて、大阪芸術大学図書館の多賀谷津也子氏の基調講演、筑波大学図書館ラーニング・アドバイザーの秋山茉莉花氏・佐藤良太氏の基調報告が行われた。

〈基調講演〉　大阪芸術大学図書館　課長　多賀谷津也子氏

「学生目線でつくる新しい図書館の形」

多賀谷氏の基調講演では、学生との協働によって図書館の中をアートの実践の場―表現の場―として、図書館空間を演出しようとする取組みが述べられた。図書館をコミュニケーションの場として捉え、空間の演出を工夫することによって、図書館は様々な他者との交流が新たな創造を生み出す場としての可能性を持ちうるという示唆に富む講演だった。

〈基調報告〉　筑波大学附属図書館ラーニング・アドバイザー　秋山茉莉花氏・佐藤良太氏

「ラーニング・スクエアにおける学習支援活動」

秋山氏と佐藤氏の基調報告では、筑波大学図書館のラーニング・アドバイザーとして学習サポートデスクでの実際の活動内容や現状、今後の課題を具体的に話していただき、図書館におけるピアサポートを実践する上で参考となる話だった。

今回のシンポジウムでは２つのサブテーマを設け、それぞれセッション１とセッション３のテーマとし、さらにセッション２「ポスターセッション」を設けた。

〈セッション１〉

テーマ：学生目線でつくる新しい図書館の形

セッション１では、次の６大学によって、このテーマによる事例発表が行われた。各大学で実践されているそれぞれ特色ある取組みが紹介された。

報告１　島根県立大学松江キャンパス図書館
報告２　山口大学図書館
報告３　島根県立大学浜田キャンパスメディアセンター
報告４　梅光学院大学図書館
報告５　徳島大学附属図書館

報告６　お茶の水女子大学
質疑応答

〈セッション２〉ポスターセッション

ポスターセッションは、図書館のラーニング・コモンズを会場にして、次の５大学による発表が行われた。各ポスターの前では、セッション１の質疑応答で質問できなかった点など、活発な質疑応答が行われた。

１　大阪芸術大学（特別出展）
２　徳島大学
３　美作大学
４　お茶の水女子大学
５　島根大学

〈施設見学〉　島根大学附属図書館

３月に改修が終わったばかりの島根大学附属図書館を島根大学の図書館コンシェルジュが案内した。約８０名という大人数をグループに分けて手際良く案内した。幸い、夏休み中の短縮開館の時期で、施設見学は既に閉館したあとだったため、他の利用者に迷惑をかけずに見学を行うことができた。

〈交流会〉

交流会は、第二食堂に会場を移して行った。１００名近い参加者があり、肩が触れ合うほどの賑わいだった。昼間の講演やセッションでは聞けなかったことや図書館の活動から離れた普段の大学生活のことなど、親しく語り合い、交流を深めるよい機会となった。

第２日目

〈セッション３〉

テーマ：ピアサポートがつくる新しい図書館の形

セッション３では、大雨のための交通機関マヒによって愛媛大学からの参加ができなくなり、島根大学のみの発表となった。

報告７　島根大学
質疑応答

〈セッション４〉図書館カフェ（ワールド・カフェ）

テーマ：人を惹きつける図書館をつくるためにあなたは何をしますか？

最後のセッションは、参加者全員により、ワールド・カフェ形式による対話を行った。

４～５人の小グループに分かれて、「人を惹きつける図書館をつくるためにあなたは何をしますか？」のテーマで対話を行った。基調講演や基調報告、各大学からの報告を聞いてそれぞれの内に芽生えた「新しい図書館の形」を、対話をとおしてさらに深めることができた。最後の全体会で３つのグループに発表してもらい、話し合われた内容を全員で共有した。

講評・閉会

セッション４終了後、大阪芸術大学の多賀谷津也子氏にシンポジウム全体を通しての講評をいただいた。講評の後、来年度の開催校である山口大学図書館の永久英雄氏の閉会挨拶により、２日間にわたったシンポジウムを終了した。

シンポジウムのプログラムはセッション４ですべて終了したが、自由参加として島根県立大学のおはなしレストランライブラリーを見学させていただいた。

〈施設見学〉　島根県立大学おはなしレストランライブラリー

４０名の方に参加いただき、島根県立大学おはなしゼミの学生の皆さんに読み聞かせをしていただいた。島根県立大学の学生スタッフの皆さんには、前日のセッション１で主に学生図書委員としての活動の報告をしていただいたが、このお話しレストランライブラリーにおいても学生協働を実践している生の姿を見ていただくことができた。この学生協働交流シンポジウムの最後を飾るイベントとして最適のものとなった。

館長の岩田先生を中心に、司書、学生スタッフが一丸となってライブラリーを盛りたてている様子がひしひしと伝わってくる実りの多い見学会となった。

3　実施状況の評価

1　アンケート調査の概要

（1）事前アンケート

基調講演、基調報告の講師の所属大学及びセッション１～３で発表する各大学における学生協働の取組みに関する基本情報を事前アンケートにより集約し、シンポジウム当日の講演・報告の理解の助けとなるよう配慮した。事前アンケートの結果を 16 ページ以降に掲載する。

（2）当日アンケート

シンポジウム終了後にアンケートを実施した。主な内容は、今回のシンポジウムの各プログラムについての満足度を問う設問及びそれぞれについての自由記述、シンポジウム全体の運営に関するものである。当日アンケートの集計結果を 35 ページ以降に掲載する。

（3）事後アンケート

シンポジウムに参加したことが学生協働スタッフの活動にどのような影響を与えたか、また、シンポジウム参加機関の学生協働の運営にどのような影響を及ぼしたかを見るために、シンポジウムの２ヵ月後に事後アンケートを実施した（実施期間２ヵ月間）。事後アンケートは、１）参加学生対象のアンケート、２）参加機関対象のアンケートの２種類実施した。
アンケート集計結果を 41 ページ以降に掲載する。

2　実施状況の評価

当日アンケート及び事後アンケートを基に、次の項目について実施状況を評価する。

１）各プログラムについて（参加学生／教職員）
２）シンポジウム参加が活動に与えた影響（参加学生）
　・シンポジウムに参加してどのような点が役立ったか。
　・活動がどのように変化したか
３）来年もシンポジウムに参加したいか（参加学生）
４）シンポジウム参加が学生協働事業の運営に与えた影響（参加機関）
　・どのような点が役立ったか。
　・運営がどのように変化したか
５）シンポジウム参加にあたっての課題は何か（参加機関）
６）シンポジウム開催範囲として適当なのはいずれか（参加機関）
７）シンポジウムを継続して実施するにあたっての課題は何か（参加機関）

（1）各プログラムについて

当日アンケートで各プログラムの満足度を５段階で回答してもらった結果を比較した図が 36 ページの図 4-2-3 である。満足度は、そのプログラムがシンポジウム全体の中でふさわしいものかどうか、運営上の問題の有無など多様な要素に左右されるため、各プログラムについての自由記述（36 ページ～39 ページの表 4-2-1～表 4-2-8）に見られる記述を読み込みな

がら、各プログラムが参加者からどのように評価されているかを見て見たい。

全般

すべてのプログラムが「大変良かった」「良かった」の合計が 80%を超えており、全体をとおして満足度が高い結果となった。プログラム全体をとおして、参加者同士が直接コミュニケーションをとることができるプログラムに対して評価が高かった。

基調講演／基調報告

基調講演と基調報告というプログラム構成は学生主体のシンポジウムにはそぐわないという意見（36 ページ表 4-2-1／表 4-2-2、39 ページ表 4-2-9）があるように、基調講演・基調報告のプログラム設定が学生の交流を主体としたシンポジウム全体の趣旨にマッチしていなかったとも考えられる。

基調講演よりも基調報告の満足度が高い結果となったのは、基調報告が大学院生による活動の報告であり、類似の活動を行っている参加学生にとって、報告内容がより身近に感じられたことの表れであると考えられる。

セッション１／セッション３（各大学からの報告）

第１日目のセッション１では６大学から発表があり、時間的にかなり窮屈なスケジュールとなったことから質疑応答の時間が十分取れなかったのに対して、第２日目のセッション３では、発表大学が１大学のみで質疑応答の時間を十分にとることができたため、会場の参加者と発表者、また、会場の参加者同士による充実したコミュニケーションが取れたことが評価された。

発表内容について、活動報告のみでなく、シンポジウムのテーマに沿って「学生目線でどんな図書館にしたいのか」に踏み込んだ発表を求める意見が見られた。（37 ページ表 4-2-3）

セッション２（ポスターセッション）

会場が狭かった点やポスターセッションへの参加大学が少なかった点など運営上の問題点の指摘があったが、発表者と間近で直接コミュニケーションをとりながら、じっくりと話を聞けた点への評価が高かった。（37 ページ表 4-2-4）

セッション４（ワールドカフェ）

「大変良かった」「良かった」の合計が 100%ととなり、高い評価を得た。講演や報告を聞いて抱いた思いを対話によってさらに深めてもらいたい、という企画の意図が十分に達せられたプログラムだったと言える。４～５人の少人数のグループの中で自分の意見をしっかりと受け止めてもらえる場をつくり、対話を深めるというワールドカフェの対話の手法はシンポジウムのテーマによく合っていたものと評価できる。（38 ページ表 4-2-6）

館内見学／交流会

いずれもシンポジウムのフォーマルな場を離れたプログラムであり、インフォーマルな場の自由なコミュニケーションをとおして交流を深めることができた点が評価された。（38 ページ表 4-2-7）

（２）シンポジウム参加が活動に与えた影響（参加学生）

参加した学生に対して実施した事後アンケートの結果、60%が「役立った」、40%が「やや役立った」と回答している。（41 ページ図 4-3-2）

シンポジウムに参加してどのような点が役立ったか。

シンポジウム参加をとおして「学生協働についての視野が拡がった」、「他大学の学生との交流をとおして刺激を受けた」、「自分の活動のモチベーションが向上した」という点で評価が高かった。（42 ページ図 4-3-3）

また、「率先して発言したり発表したりすることで度胸がついた」、「初対面の相手から意見を聞き、聞いた意見を自分の頭でどういうことなのかを理解し、また他の人が意見を言いやすいように話をふることを学べた」という記述に見られるように、対人能力やコミュニケーションスキルの向上など自らが成長できたことに対する評価も挙げられた。（42 ページ表 4-3-1）

活動がどのように変化したか

「新たな企画を実施、または計画中である」、「学生スタッフや職員とのコミュニケーションが活発化した」点について評価が高かった。（43 ページ図 4-3-4）

また、他大学の取組み事例を参考にして具体的な企画に取り組み始めたことの他に、ワールドカフェでの経験から「意見や疑問を言う際、自分の中でもう一度反芻し、“何が言いたいのか、どうしたいのか”を明確にしてから発言するようになった。」と自らの成長への言及も見られた。（44 ページ表 4-3-2）

（３）来年もシンポジウムに参加したいか（参加学生）

80%近くが来年もシンポジウムに参加したいと回答している。（44 ページ図 4-3-5）

来年も参加したい理由として、「新しい発見や違った考え方が得られる可能性がある」などシンポジウムに参加することで活動のヒントを得ることができることの他に、「企画力・実行力が身に付く」、「シンポジウムに参加することで人間的に成長していると感じることができる」、「前回とは違う自分を感じることができる」など自分の成長の機会を得ることができることを理由として挙げている。（44 ページ表 4-3-3）

（４）シンポジウム参加が学生協働事業の運営に与えた影響（参加機関）

回答した 11 機関の内、9 機関が「役立った」、2 機関が「やや役立った」と回答している。（47 ページ図 4-3-8）

どのような点が役立ったか。

学生協働の具体的な運営事例を知ることができたことや学生スタッフのモチベーションが向上したことの他に、シンポジウムをとおして「図書館に対する学生の率直な意見を聞くことができた」、「学生協働の活動の意義を学生と共有できた」など学生との交流をとおして学生協働の意義を再確認できたことが挙げられている。（47 ページ表 4-3-5）

運営がどのように変化したか

他大学の事例を参考に学生スタッフとのコミュニケーションが活発になるような改善を実施するなど具体的な改善方策が行われている他に、学生スタッフが「自分たちの活動にもっと誇りを持ち、自分たちの成長を実感できるよう」な環境の醸成に努めたいとする記述も見られた。（48 ページ表 4-3-6）

（５）シンポジウム参加にあたっての課題は何か（参加機関）

シンポジウム参加にあたっての課題として、「学生の旅費の確保」（8 機関）、「学生の日程調整」（5 機関）が多く挙げられた。（48 ページ図 4-3-9）その他、少ない職員の中で引率職

員をどう確保するか、準備を進める上で学生の主体性をどのように尊重するか、学内の教育・学生系の部署に対してシンポジウムの教育的な意義を理解してもらうことの重要性などが指摘されている。また、関東で同様のシンポジウムの開催の可能性が検討課題として上げられ、今後他地区へ波及する可能性もある。（49 ページ表 4-3-7）

（６）シンポジウム開催範囲として適当なのはいずれか（参加機関）

シンポジウムの開催範囲として、中国地区などの「ブロック単位」（5 機関）、「全国」（4 機関）が多く挙げられている。（50 ページ図 4-3-11）全国の学生協働スタッフに参加の機会を与えることの意義が指摘されている半面、参加範囲を拡げることによる旅費負担の増大の懸念が指摘されている。（50 ページ表 4-3-9）

（７）シンポジウムを継続して実施するにあたっての課題は何か（参加機関）

シンポジウムを継続して実施するにあたっての課題として、「企画・運営の在り方」（9 機関）、「開催費用の確保（講師派遣旅費等）」（7 機関）、「会場校の決め方」（6 機関）が挙げられている。（51 ページ図 4-3-12）その他、「大学の規模・学部構成の違いが学生協働の活動内容に違いもたらすことから全体会と分科会に分けるなどの運用上の工夫が必要」、「一部の大学に会場が固定してしまう恐れ」、「交流が進んだ結果、活動がどの大学も似通ってしまう」などの点も指摘された。（51 ページ表 4-3-10）

４　アンケート結果

シンポジウムの前後に実施した３種のアンケートの集計結果を次ページ以下に掲載する。

4-1　事前アンケート　…　16p
4-2　当日アンケート　…　35p
4-3　事後アンケート　…　41p

4-1　事前アンケート

基調講演、基調報告の講師の所属大学及びセッション１～３で発表する各大学における学生協働の取組に関する基本情報を事前アンケートにより集約した結果を以下に掲載する。

4-1-1 学生スタッフに対して

（１）現在、活動している学生スタッフの人数、その構成

（表 4-1-1）

大阪芸術大学	人数：18 人 （内訳）1 年生　1　人(女：1 人)｜2 年生 2 人　(女：2 人)｜ 3 年生 14 人(男：1 人　女：13 人)　｜ 大学院生 1 人　(男：1 人)
筑波大学	人数：　6 人 （内訳）大学院生　6 人　(男：4 人　女：2 人)
島根県立大学松江キャンパス	人数：　18 人 （内訳）1 年生 9 人(男：1 人　女：8 人)｜2 年生 9 人(女：9 人)
山口大学	人数：36 人 （内訳）1 年生 5 人(女：5 人)｜2 年生 15 人(男：1 人　女：14 人) 3 年生 9 人(男：1 人　女：8 人)｜4 年生 7 人(女：7 人)
島根県立大学浜田キャンパス	人数：15 人 （内訳）1 年生 4 人(男：3 人　女：1 人)｜2 年生 2 人(女：2 人) 3 年生 8 人(男：4 人　女：4 人)｜4 年生 1 人(女：1 人)
梅光学院大学	人数：41 人 （内訳）1 年生 23 人(男：5 人　女：18 人)｜2 年生 9 人(男：2 人　女：7 人) 3 年生　9 人(男：2 人　女：7 人)
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	人数：4 人 （内訳）1 年生 1 人(女：1 人)｜2 年生 3 人(男：1 人　女：2 人)
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	人数：15 人 （内訳）1 年生 1 人(女：1 人)｜2 年生 5 人(男：1 人　女：4 人) 3 年生 4 人(女：4 人)｜4 年生 4 人(男：1 人　女：3 人) 大学院生 1 人(女：1 人)
お茶の水女子大学	人数：35 人 （内訳）1 年生 10 人(女：10 人)｜2 年生 9 人(女：9 人) 3 年生　9 人(女：9 人)｜4 年生 7 人(女：7 人)
美作大学	人数：15 人 （内訳）1 年生 7 人(男：1 人　女：6 人)｜2 年生 2 人(男：1 人　女：1 人) 3 年生 3 人(女：3 人)｜4 年生 3 人(女：3 人)
島根大学	人数:15 人 （内訳）1 年生　募集なし ｜2 年生 1 人(女：1 人) 3 年生 7 人(男：3 人　女：4 人)｜4 年生 3 人(男：2 人　女：1 人) 大学院生 3 人(男：2 人　女：2 人)
愛媛大学	人数：36 人 （内訳）1 年生 13 人(男：1 人　女：12 人)｜2 年生 10 人(男：2 人　女：8 人) 3 年生 6 人(男：2 人　女：4 人)｜4 年生 7 人(男：1 人　女：6 人)

（２） 定期的に集まる機会はありますか。
2.a）どのくらいの頻度で集まっていますか。
2.b）そこで具体的にどのようなことをしていますか。

（表 4-1-2）

大阪芸術大学	2.a）週１回 2.b）ミーティング　（企画、イベントの相談等）
筑波大学	2.a）月１回 2.b）職員の方を交えて、学生サポートデスクにおける対応の共有 LA 企画の発案及び遂行
島根県立大学松江キャンパス	なし
山口大学	2.a）全員が集まるのは月に１回の定例会。そのほか各 WG で随時集まって活動している。 2.b）定例会では、各 WG の活動報告や意見交換に加え、カウンターに関する業務連絡などを行っている。
島根県立大学浜田キャンパス	2.a）月に１度。 2.b）定例会を行って、今後の活動について話し合います。
梅光学院大学	2.a）週に一回 2.b）活動の報告、今後の打ち合わせ
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	2.a）1 週間に一回 2.b）課題や広報戦略の検討・データの集計
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	2.a）週に１度 2.b）ミーティング，イベントの準備
お茶の水女子大学	2.a）有志の集まりが週１回 2.b）自主企画の内容の打ち合わせ
美作大学	2.a）週に１回（授業期間のみ） 2.b）ミーティング
島根大学	2.a）月一回行われる定例ミーティング 2.b）普段の活動内で生じた疑問や不安点に今後どのように対応するかの話し合い
愛媛大学	2.a）週 1～2 回 2.b）ミーティング（次週の図書館活動、今週の振り返り、企画準備について）

（３）活動の際のユニホームのようなものはありますか。 それはどのようなものですか。

（表 4-1-3）

大阪芸術大学	なし
筑波大学	なし
島根県立大学松江キャンパス	なし
山口大学	エプロンを着用している。1～3 年生：赤色、4 年生：紺色
島根県立大学浜田キャンパス	なし
梅光学院大学	黄色のポロシャツ
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	なし
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	なし
お茶の水女子大学	ユニホームというほどのものではないが、エプロンを着用し、首から名札をさげる
美作大学	なし
島根大学	コンシェルジュ自らがデザインしたエプロン
愛媛大学	なし

（４）どの程度の頻度で活動（定例会などの定期的に集まる会を除く）をしていますか

（表 4-1-4）

大阪芸術大学	1~2 か月に 1 回、学外も含めて、企画やイベントを行っている。
筑波大学	学生サポートデスクでの応対は、各スタッフ毎週 2 時間から 5 時間程度
島根県立大学松江キャンパス	月に 1 度は必ず集まる、多い時で 3 回くらい
山口大学	カウンターは毎日。WG は平均して週に 1 回程度。
島根県立大学浜田キャンパス	月に 1～2 度。
梅光学院大学	月に 10 日程度
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	平日 14：00～19：00 の 5 時間
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	週に 1 度集まってイベントの準備作業などを行っている。イベントは 2～3 か月に 1 度程度開催している。これまでの活動は下記のとおり。 ・「私のオススメの一冊」イベント（オススメの本を各自プレゼンし、投票を行うイベント） ・先生へのインタビュー（先生のオススメ本や学生に薦めたい本を紹介してもらう企画） ・ポップコンテスト ・図書館 1 階ホールでのテーマ展示 テーマ：「テストが終わったら読みたくなる本」、「映画化・ドラマ化された本」、 一人展示（展示棚の 1 コーナーを学生各々が担当し、テーマ・展示する本・レイアウトの考案、ポップ・掲示物の作成など一連の作業を全て一人で行う企画）等 ・徳大図書館用英会話集の作成（現在進行形） ・ライブラリーワークショップ広報ポスターの作成 ・ライブラリーワークショップ広報誌紙の発行（月刊） ・持ち寄った本について語り合う会 ・帯づくり（図書館の本に帯を作って展示）
お茶の水女子大学	各学生による。（自分で業務計画をたてる）　1 期（半年）で 40 時間が目安
美作大学	2 ヶ月に 1 回程度
島根大学	カウンターでの対応が一週間に 2～3 時間。他に個人での活動
愛媛大学	週 1 回

（５）学生スタッフ間の連絡は、どのように行っていますか

（表 4-1-5）

大阪芸術大学	携帯・スマホの ML、サークル gmail
筑波大学	メーリングリスト、google ドライブのスプレッドシートを「連絡帳」として共有
島根県立大学松江キャンパス	メール中心
山口大学	専用のメーリングリストが主。学生同士の仲が良いので携帯電話や SNS を使う場合も多い。
島根県立大学浜田キャンパス	メール。最近は LINE。
梅光学院大学	サポーター長が各学年の代表学生にメールをし、その学生が各学年メンバーに送る
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	メーリングリスト
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	Facebook やメーリングリストを使って。
お茶の水女子大学	メーリングリスト、ホワイトボード掲示板、連絡ノート
美作大学	週 1 回のミーティングおよび携帯メール
島根大学	メーリング及びスタッフ専用のＨＰ
愛媛大学	Gmail のグループ、LINE の使用、携帯メーリングリスト

（６）学生スタッフ間の親睦を深める工夫はありますか

（表 4-1-6）

大阪芸術大学	ミーティング後の茶話会、懇親会
筑波大学	LA 企画などで、共同作業を行うこと。月 1 回の MTG。不定期に行う飲み会。
島根県立大学松江キャンパス	新入生歓迎会、大学祭打ち上げ、１年間お疲れ様会
山口大学	普段から比較的交流が多いが、特に新メンバー加入の際には学生が自発的にレクリエーション(ボウリングなど)を行って親睦を深めている。また、OG メンバーを招いて懇親会を開くこともある。大学祭(夏の七夕祭、秋の姫山祭)にも参加。
島根県立大学浜田キャンパス	今のところ特にはありません。
梅光学院大学	親睦会を開くなど
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	おしゃべり・女子会
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	月１度のランチミーティングや、週１度のミーティングにおいて。
お茶の水女子大学	現状はなし
美作大学	親睦 BBQ の開催等
島根大学	食事会やカラオケによる年数回の親睦会
愛媛大学	ミーティングはあまり堅苦しくしない。

（７）図書館職員と交流する機会がありますか。あるとすればどのような方法ですか。

（表 4-1-7）

大阪芸術大学	顧問の職員とは、6 のような機会があるが、その他の職員はない。
筑波大学	LA 制度自体は、学生が自発的に始めた取り組みではなく、附属図書館職員の発案によって行われているものである。イメージとしては、雇用者(図書館職員)と被雇用者(LA)の関係であるため、業務中など様々な場面において、図書館職員との接点がある。 メーリングリストや google ドライブ上の連絡帳は、担当の図書館職員とも共有されており、これらの連絡手段でも、LA と図書館職員との間で相談や意見交流などが行われている。また月 1 回の MTG や不定期に行う飲み会も職員の方々に参加していただいている。
島根県立大学松江キャンパス	普段の活動の中で相談や協力をお願いしている また、打ち上げの参加など
山口大学	日ごろの会話、挨拶。加えて、カウンター業務について職員に質問するときや、WG 活動について相談をするときに交流している。また、定期的に行われる職員との昼食会に参加して話をすることもある。
島根県立大学浜田キャンパス	定例会などで一緒に話し合っています。
梅光学院大学	職員さんに POP の作り方を教えていただいたり、3 年生が月に一回行う今後の活動を決める会議に参加していただいている。
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	スタッフに図書館職員がいて、定期的な集まりに参加していただいている。
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	職員、学生ともに同じミーティングに出席していて、企画運営にともに携わっている。
お茶の水女子大学	普段の図書館通常業務
美作大学	週 1 回のミーティングには図書館職員も参加 親睦 BBQ も同じ
島根大学	定例ミーティングには職員も参加 懇親会に参加することもある
愛媛大学	館長さんとの話し合いを 4 月と 8 月に行った。

（８）新メンバーを募集する時についてお聞きします。

8.a）募集する時期はいつですか。

8.b）どのような方法によって募集していますか。（例：ポスター、メールなど）

（表 4-1-8）

大阪芸術大学	8.a) 4 月ごろ 8.b) ポスター、チラシ、リーフレット
筑波大学	8.a) 1 月～2 月ごろ 8.b) Web,図書館内および専攻事務室でのポスター掲示・チラシ配布,図書館メールサービス登録利用者への一斉メールなど
島根県立大学松江キャンパス	8.a) ４月ごろ 8.b) チラシ配布
山口大学	年によってちがうが、6 月のゴールデンウィーク明けから募集を始めることが多い。 今年は 5 月から募集を始めて、定員に達したため 6 月に募集を打ち切った。
島根県立大学浜田キャンパス	8.a) 5 月ごろ 8.b) ポスター。
梅光学院大学	8.a) 常に 8.b) ポスター、広報誌による宣伝、学校が設けている部活動勧誘週間
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	8.a) 特に月は指定せず、随時募集している。 8.b) 知り合いからの口コミ・パンフレット・ポスター
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	8.a) 特に時期は決めず，随時募集。 8.b) ポスターや、グループが毎月作成し発行している新聞上にて。
お茶の水女子大学	8.a) ４月、10 月ごろ（年２回） 8.b) ポスター、図書館ＨＰ （図書館による募集。半期ごとの更新になり、旧メンバーも半年ごとに図書館に継続希望の連絡を必要とする）
美作大学	8.a) 4～5 月ごろ 8.b) ポスター、新入生オリエンテーションでのプレゼンテーション
島根大学	8.a) 2 月上旬～4 月上旬 8.b) 図書館ＨＰ上でのお知らせとポスターの掲示
愛媛大学	8.a) 4～5 月ごろを中心に基本的通年を通して募集。 8.b) ポスター、説明会の開催、ビラ、HP。

（９）新メンバーの研修等は行っていますか。
9.a）それはだれが行っていますか。
9.b）具体的にどんな研修をしていますか。

（表 4-1-9）

大阪芸術大学	していない
筑波大学	9.a）図書館職員,外部講師,2 年目以上の LA,教員 9.b）【初期教育】着任時 ・学生サポートデスクにおける仕事の手順(図書館職員,2 年目以上の LA) ・基本的な図書館利用法 ・文献検索方法(図書館職員) 【その他】 ・ライティング支援講習(外部講師) ・利用者向け「論文の探し方講習会」（図書館職員または外部講師）や「ライティング支援連続セミナー（教員）」の受講
島根県立大学松江キャンパス	していない
山口大学	9.a）年によって多少程度に差はあるが、基本的に先輩メンバーが研修を行っている。 9.b）新メンバーでカウンター業務を希望する者にはカウンター業務研修を行っている。今年は職員が研修計画を立て、研修日程の調整や講師役は先輩メンバーが行った。
島根県立大学浜田キャンパス	していない
梅光学院大学	していない
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	していない
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	していない
お茶の水女子大学	最初に業務に入る際に、図書館職員の方から業務内容を教わる
美作大学	していない
島根大学	9.a）図書館職員 9.b）図書館サービスの全般について OPAC・文献データベースの利用方法 館内にある総合情報処理センター分室 PC ルームの PC・ネットワーク・プリンターの利用方法
愛媛大学	9.a）2 回生を中心に上回生 9.b)自団体の設立経緯、ブログの書き方、図書館での対応の仕方など。

（１０）活動をするうえで一番苦労していることはなんですか。

（表 4-1-10）

大阪芸術大学	授業や課題で忙しい中での日程調整
筑波大学	学生サポートデスクの存在を学生に認知してもらうこと。新入生へ向けての宣伝は行っている。
島根県立大学松江キャンパス	短大なので引継ぎが難しく、活動する際に毎回手探り状態
山口大学	カウンター業務 ・利用者との距離感の図り方。様々な立場の方と関わるので接する人によって対応の仕方を臨機応変に変えること。 ワーキング ・ワーキング参加者の確保と日程調整。
島根県立大学浜田キャンパス	それぞれかけ持ちしている部活動、学校生活（時間割など）やバイトなどで中々全員集まる機会がない。
梅光学院大学	ボランティア団体なので各自の積極性に左右され、活動をするうえでの目標人数に達しないことが多々ある。
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	十分な広報を行えていないこと・スタッフ不足
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	メンバー全員が集まれる日を調整すること。
お茶の水女子大学	メンバー間の連携の不足
美作大学	苦労している事より楽しい事の方が多い。 定例会議の時間が短く、またそれ以外で話し合い等をする機会もないため、ボランティア同士の連携が取りにくい。
島根大学	・交流会やミーティングの日程調整 ・コンシェルジュ間での情報交換
愛媛大学	学内の学生の図書館に対するニーズ把握。

（１１）前回のシンポジウム参加後、活動に変化はありましたか。それはどのような変化ですか。

（表 4-1-11）

大阪芸術大学	参加していない
筑波大学	参加していない
島根県立大学松江キャンパス	アンケートの実施、コーティング作業
山口大学	・シンポジウムに参加してからいろいろなことに参加していこうと思うようになった。また、周りをみて自分にできることはないか意識する機会も増えた。 ・目標に向かって頑張っていこうという意識的な変化が一番大きな変化だと思う。シンポジウムに参加してからは、活動ごとに目標を持って活動することができている。
島根県立大学浜田キャンパス	他の大学の図書館が行っているアイデアに刺激を受け、メディアセンターでも取り入れたことがあった。
梅光学院大学	他大学の発表を聞き図書館の外ではなく、内側へと目を向けなおし館内にゴミ箱を設置するという新しい活動を始めた。
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	参加していない
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	参加していない
お茶の水女子大学	参加していない
美作大学	参加していない
島根大学	＊図書館改修工事に伴う閉館のため、前回シンポジウム後に活動が休止状態となった
愛媛大学	参加していない

（12）学生スタッフが図書館づくりに関わることによって、図書館はどのように変わったと思いますか。

（表 4-1-12）

大阪芸術大学	以前より親しみやすくなって、学生が望んでいることが、少しずつ実現している。
筑波大学	学生サポートデスクが存在することで、ＰＣの利用法やライティングに関することなど、資料検索に留まらない学習相談を受け付けられるようになった。学生の学習・研究活動に対して幅広い支援を行う図書館になった。
島根県立大学松江キャンパス	展示コーナーを毎回楽しんでもらえた。 アンケートで学生の意見を聞き、取り入れることができた。
山口大学	・学生スタッフ自身が図書館を利用した時に感じたことを活動に生かすことによって、学生が欲しいサービスがどんどん揃うようになってきた。 ・展示などを様々なコーナー（絵本、就活など）でも行うことで、本を利用してもらうことの促進にもつながっていると思う。 ・特にカウンターに学生スタッフがいることで、利用者の学生が来やすい・尋ねやすい雰囲気になっているように思う。 ・雰囲気が若くて生き生きしている。
島根県立大学浜田キャンパス	少しずつだが学生により寄り添う図書館になっていっている様に感じる。
梅光学院大学	ゴミ箱の設置やブックハンティングの活動をすることによって少しでも一般学生の利用しやすい空間に近付けたのではないかと思う。
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	SSS 目的で図書館を利用する学生が増えた。
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	どのようにすれば利用者がよりよく図書館を使えるかという目線で学生が活動することで、学生の利用者が増えたのではないかと思う。
お茶の水女子大学	学生の視点でサービスが改善される機会が増えた
美作大学	ブックハンティング等のイベントがあり、学生が本に触れる機会が増えているのではないかと思います。
島根大学	・一利用者としてやカウンターでの対応で感じた図書館の不便な点が直接職員に伝わり、改善につながりやすくなる ・図書館のカウンターで業務をサポートすることで、職員の負担が軽減される
愛媛大学	学生にとって図書館への親しみやすさが増した。

（１３）今後、学生スタッフがどのようにあるべきだと思いますか。

（表 4-1-13）

大阪芸術大学	もっと図書館を使いやすくする提案ができれば良いと思う。 コンスタントにメンバーがそろえば良いと思う。
筑波大学	・院生の本分である研究に打ち込みつつ、ライティング支援の能力も向上させ、より高度な学習支援を実現すること。 ・図書館の運営の意向に沿った新しい企画を立ち上げ、より一層、図書館のサービス充実に協力すること。
島根県立大学松江キャンパス	利用者の声を聞く。それを図書館に反映させる。 いろんなイベントを通して図書館を身近に感じてもらう。
山口大学	・もっと積極的に活動に関わっていくべきだと思う。大学生の限られた時間の中で活動できる時間はほんの少しかもしれないが、その中で有意義な活動ができるように、職員の方とも関わりをもって、活動することができればいいなと思う。 ・活動に対して自分なりの考えを持って取り組み、積極的に行動を起こして、図書館をより良くしようと真摯に活動すべき。 ・活動を通して、何かしら得る（学ぶ）ことで自分自身の成長につなげることも大切だと思う。 ・学生という身分でありながら、社会で働く方々と共に活動させていただいているので、学生らしい目線を保ちつつやるからには責任をもって活動する存在であるべきだと思う。 ・図書館運営には関われませんが、折角図書館側と利用者側の二つの視点を持っているのだから、どんどんと意見を出して、実現させていけたらいいと思う。 ・「あるべき姿」という正解はないと思う。その分そこで活動するメンバーの意気込みが大切な活力源になるのではないかと思う。 ・特に「こうあるべき!!」形はないと思う。丁寧であるべきだとは思う。対応にしても、仕事にしても。例えば間違ったり、分からなかったりしたときに、「どうしたらいいのか？」と考える姿勢を常に心がけるようにするといいのではないかと思う。
島根県立大学浜田キャンパス	図書館づくりに関わる中で、自発的、積極的に活動できる人間に成長していけたなら最高だと思います。
梅光学院大学	私たちは学生一人一人にとって図書館が居心地の良い空間になれば、という考えで活動しています。そのためにはまず自分たちが積極的に図書館を利用し、どのような図書館になればいいかという理想を持つことが大切だと思います。
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	当初の目的を忘れず、大学と図書館の活性化のために活動していくべき。
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	楽しんで活動を続けていくこと。誰でも利用しやすい図書館を考えること。

お茶の水女子大学	図書館で仕事をする上で得られるものが何か、自分で探すこと。 自主企画など自分発になるものに積極的に関わっていくこと。 与えられた仕事をこなすだけにとどまらないこと。
美作大学	皆で力を合わせて楽しく活動出来ればいいなと思います。 利用者のニーズを把握した上で図書館と利用者をつなぐ、コーディネーターのような立ち位置のボランティアが出てくれば、より図書館の活性化・利用促進に貢献できるのでは。
島根大学	学生だからこそできる図書館づくりを自発的に行う
愛媛大学	学生目線で、学内の学生が利用しやすい図書館作りに努めるべきだと思う。

4-1-2 職員に対して

（1）学生スタッフが図書館にかかわることによって何か変化した点はありますか。

（表 4-1-14）

大阪芸術大学	学生と図書館の垣根が低くなったと思う。学生目線で学生の意見を取り入れようという流れになった。
筑波大学	・図書館サービス・設備・企画等について、学生目線での疑問・意見など日常的に聞いたり相談したりできるようになり、学生の声を諸活動に反映しやすくなった。 ・諸活動において、学生との協働を常に意識するようになった。 ・学生スタッフ、利用者である学生、図書館のいずれもがメリットを得られるような業務、企画、サービス等を考えることを通して、これまで以上に真剣に「学生」に向き合い、その生の声を得ることができるようになった。 ・職員ではできない柔軟な発想を学生スタッフから得ることで刺激を受け、職員自身のモチベーションの活性化に繋がっている。
島根県立大学松江キャンパス	図書館の雰囲気がよくなった 職員が学生と関わる機会が増えた（学生図書委員だけではなく企画によって他の学生とも）
山口大学	学生目線の図書館サービスができるようになった。それまでは職員だけで考えて行っていたサービスに学生の意見を取り入れ、学生の力を借りながら学生のニーズに合ったサービスを実現できるようになった。また、学生から刺激を受けて、共に考える中で職員もまた成長していると思う。
島根県立大学浜田キャンパス	着任時より活動していたので、以前の様子は分かりませんが、学生目線で選ぶ資料が増えたのではないかと思います。
梅光学院大学	POP 展示、図書館キャラクター作成、オープンキャンパス案内などを通して図書館の印象が、明るく柔らかくなった。 学外活動（図書館総合展参加、中学校でのブックトーク、ブックハンティング、シンポジウム参加など）で他大学や地域との交流が増え、学生も職員も大学図書館の情報を学外にどう発信していくかを考えるようになった。
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	・学生ならではの企画を行えるようになった。 ・学生の知り合いが増え，直接図書館と活動していない学生についても情報が入るようになり，色々な企画への参加の勧誘を行えるようになった。
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	・学生ならではの企画を行えるようになった。 ・図書の紹介を中心とした企画を定期的に行っており，いつも楽しそうな図書の展示があることで，利用者の興味を引き出すことができている。 ・学生の知り合いが増え，直接図書館と活動していない学生についても情報が入るようになり，色々な企画への参加の勧誘を行えるようになった。
お茶の水女子大学	・図書館サービスの向上 ・職員の説明スキルの向上、業務改善に対する意識の高まり

美作大学	積極性や責任感が伸びた
島根大学	職員が気付かない部分や気づいていても手が回らなくて後回しにしている部分について、学生の視点で企画をたてて改善してもらえることは、きめ細かな図書館サービスの実現につながっている。
愛媛大学	・図書館では、学生の視点による忌憚のない意見を、また、カウンターの内からではなかなか聞けない、生の声を直接聞けるため、とてもありがたく思っています。 ・カウンター内の LS 席へ LS がいるときは、他の学生も質問などを投げかけやすくなっているようです。自分たちと同年代のスタッフ（カウンターの中にいる場合図書館関係者として他の利用者は見るので）は、図書館というものの敷居を下げるのに一役買っていると思います。 ・また、発足からこれまでの活動では、OPAC の表示改善（配置場所をわかりやすく）、オススメ本（学生視点からのオススメは学生にもなじみやすい）、シェルフリーディング（書架の整理をしてもらっていることで、他の利用者が本を探しやすくなる）、消しゴムカス入れ（学習環境の向上！）など、地道に少しずつ、図書館のいろいろなところが改善されています。残念ながらはっきりと利用者の声がきけているわけではありませんが、図書館が利用しやすくなっていることは確かです。

（２）学生スタッフとどのように連絡を取っていますか。

（表 4-1-15）

大阪芸術大学	メール（携帯等）
筑波大学	メーリングリストや毎月のミーティングの他に、Google ドライブ上に設置したファイルに各自が書きこむことで情報の共有を図っている。オンライン上のやりとりだけではなく、普段の何気ない会話やミーティングなどの直接対話を大事にすることで信頼関係を築けるよう配慮している。
島根県立大学松江キャンパス	メール
山口大学	メーリングリストが主。本人と話がしたい時は個人宛にメールを送ったり電話をしたりしている。
島根県立大学浜田キャンパス	学生の来館が定期的にあるのでその際に話をしています。また、学内メールを使います。
梅光学院大学	メール
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	・ミーティング（毎週） ・メーリングリスト ・Facebook
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	・ミーティング（毎週） ・メーリングリスト ・Facebook
お茶の水女子大学	メール
美作大学	週 1 回のミーティングおよびメール
島根大学	主にメーリングリスト。
愛媛大学	定期的…週の活動の際のミニ報告（活動前・活動後）など 不定期…メール、活動後の話合い。図書館利用時に見掛けたら挨拶時に連絡など 今後実施していきたいこと…LS 全員と図書館員とで、定期的な話合いのできる場を持ちたいと考えています。

（３）今後の学生スタッフに期待する活動はありますか。

（表 4-1-16）

大阪芸術大学	図書館を使いやすくするアイデア等を実際に活かせるように協働して、一緒に取り組めれば良いと思う。
筑波大学	学園祭への出展や新たな Web コンテンツ制作など、学生スタッフからの発案で始まる活動が今年度からさらに増えてきている。今後も定型的な業務にとどまらず、利用者のニーズをおさえた学生ならではの発想で、新しい活動を提案してくれることを期待している。 可能であるなら、LA 自身によるアトラクティブな LA のプロモーション活動ができると好ましい。
島根県立大学松江キャンパス	2 年間しか活動期間がないなかで本当によく頑張ってくれていると思います。本人達が学生図書委員の活動を楽しんで出来るというのが 1 番だと思います。
山口大学	毎日自分たちの活動に真摯に向き合い、一生懸命取り組む皆さんの姿勢にいつも励まされています。10 月には新しい図書館が部分開館し、4 月には完全リニューアルオープンしますが、建物ができてそれで完成ではないと思います。皆さんといっしょに新しい図書館をより素晴らしい場所にしていきたいので、どうすればもっと良くなるのかいっしょに考え、成長していきましょう！アイディアを発送する力、それを企画する力、実行する力をいっしょに養っていきましょう！
島根県立大学浜田キャンパス	学生・教職員と図書館の橋渡しをする役割を担ってもらいたいので、学内へ向けての広報に力を入れてもらいたいと考えています。また、自分たちに何ができるのかということを再認識してもらいたいと思います。
梅光学院大学	前例に倣うのではなく、自分たちがやりたい活動、楽しそう、面白そうと思える活動を考えて、積極性に実行して欲しい。
徳島大学・STUDY SUPPORT SPACE（SSS）	・学生と教員をつなぐ企画 ・講習会講師や図書館ツアーを行う，ピア・サポート活動
徳島大学・ライブラリー・ワークショップ（LW）	・自分たちで企画・立案し，最後まで自分たちでやりぬくこと。 ・ビブリオバトル
お茶の水女子大学	・自分たちの活動の記録を次の世代に継承すること ・ピアサポート
美作大学	図書館の楽しく親しみやすい雰囲気作りの一翼を担ってもらいたい
島根大学	図書館利用サポートがもっと活用してもらえるような工夫をして欲しい。また、サポートにあたって、各自の得意領域を活かしたサポートを期待したい。 今後は、学生スタッフの組織の中で、できるだけ自立的な運営（新メンバーの募集、スキルの継承なども含めて）ができるようになって欲しい。

愛媛大学	・これまでの活動に加えて、もっといろいろ図書館に働きかけて欲しいと思います。それこそ図書館を巻き込んで、"自分たちが変えてやる!"くらいの勢いをもって。 ・こちらから企画のお手伝いをお願いすることも多々あり、こちらは非常に助かっていますが、逆に、こういうことをやりたい。させてほしい。ということがあれば、遠慮なく言っていただきたいです。 ・他の部局（SCV など）との連携や、読書会やビブリオバトルや、保育園での読み聞かせやなど、勉強会・講習会やミニシンポジウムなど「外」へ働きかけるものでも、逆に、逆に図書館の「中」へ、カウンターの仕事がしたい、図書館の仕事が知りたい、こういったところをこう変えたい、レファレンスを勉強したい、などももちろん OK です。 ・学生ならではの柔軟な視点と素朴な興味をぜひ！図書館へ活かしてほしいと思います。 ・大きなことでなくてもいいんです。こうしたい。とシンプルに考えてください。 ・図書館は、LS さんに、利用者の中でも一番、図書館を好きになってもらいたい。だからこそ、図書館の一番のサポーターであり、好きだからこそ図書館についても詳しくなる。だからこそ、いろいろ図書館についての疑問や興味がわいてくる。だからこそ、図書館をいろいろ変えていきたい。良くしていきたい。LS 設置の目的と同様、そういった好循環が生まれることを、図書館は一番望んでいます。 ・まだまだ図書館からのサポートが足りないところも多々あります。それは、こちらからも LS さんの要望をくみ取り、よりよいサポートが出来るよう努力していきます。LS のみなさま、いつもありがとう。そして、これからもまたよろしくお願いします。

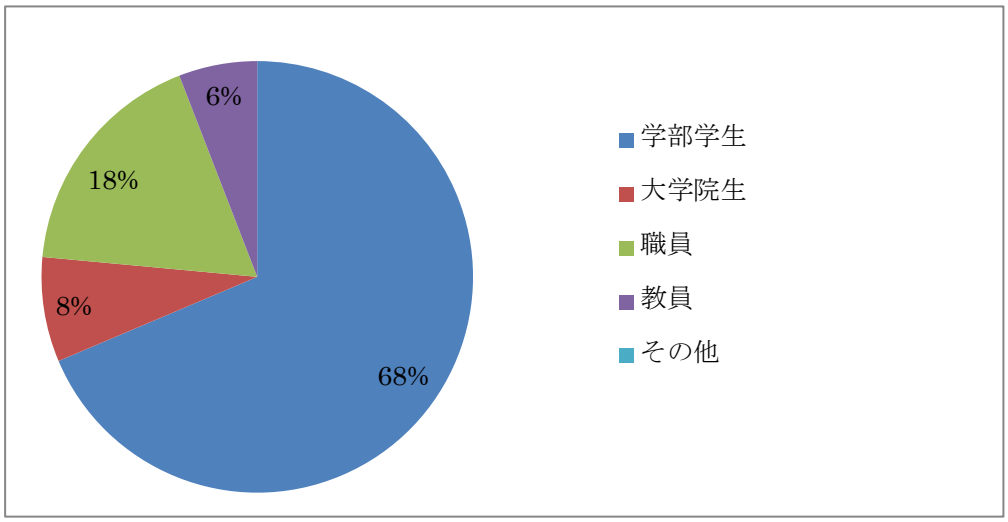
4-2　当日アンケート

シンポジウム終了後に参加した学生・教職員に対して行ったアンケートの結果を以下に掲げる。

（1）回答者の内訳

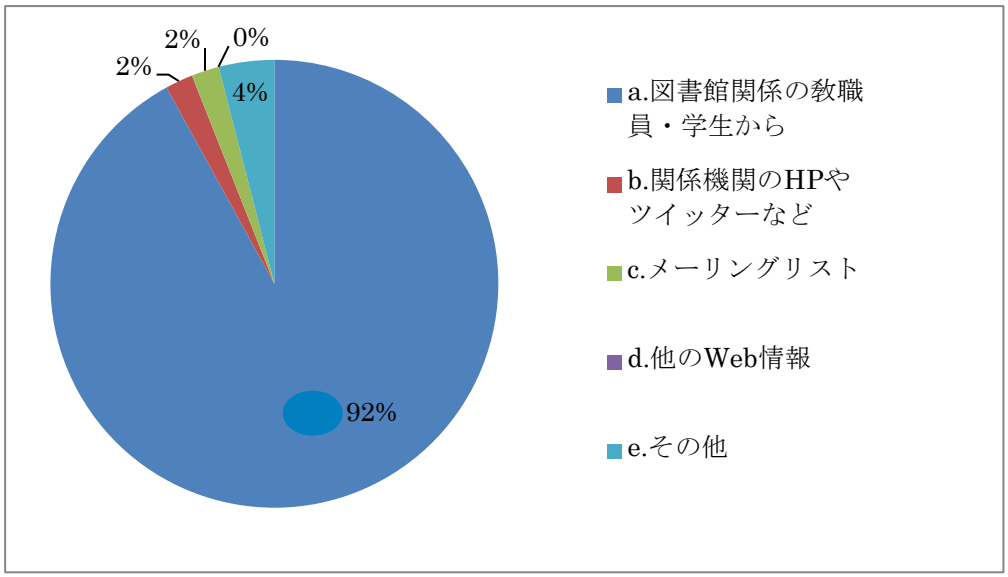
全参加者 98 名に対し、51 人から回答を得た（回答率 52%）。回答者の内訳は次のとおりである。

（図 4-2-1）



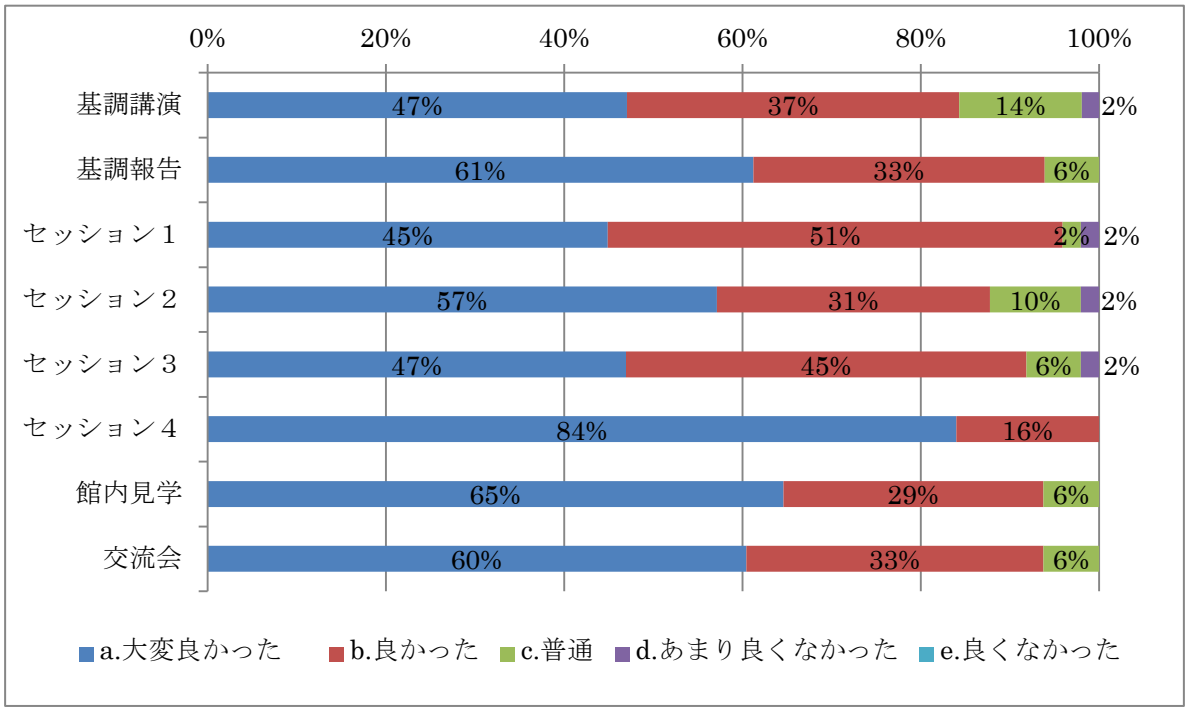
（2）どこでこのシンポジウムを知りましたか？

（図 4-2-2）



（3）各プログラムの満足度

（図 4-2-3）



（4）各プログラムについての自由記述

≪基調講演≫

（表 4-2-1）

学生とのコラボレーションによる図書館の活性化の成功例として、理解できた。ただ、芸術大学という事情で展覧会ができたので、他の大学に適用できるかは難しいと思う。ただ、図書館を演出することは大事だと思った。
「展示」という視点から、新しい図書館の形を考え直すことが出来て良かった。
インターネットが普及した時代に、図書館の“場”という〝空間”を活用する試みは、デジタルではないからこそ図書館の存在意義を見いだせるヒントを示していると思った。
話自体は興味深いものだったが、学生向けではないように感じた。職員研修や学会における講演や発表ならば良いと思うが…この講演があることでシンポジウムの目的が分かりにくくなってしまった。※
人を図書館に呼ぶために、ただ単に「図書館に来て」というだけではなく、イベントを催すことで自然と足を向けてもらうという点は改めて気づかされた。大阪芸大さんの強みを生かした活動は大変参考になる。
マネは出来ないが、出来ることから始める、「賛否両論はあってもいい」など、私たちにも通用しそうな教訓を得た。
時間長い

≪基調報告≫

（表 4-2-2）

筑波大学でのラーニング・アドバイザーの運営の仕方が参考になった。今後、本学でもラーニング・アドバイザーを導入していくので勉強になりました。
ラーニング・スクエアという学生が気軽に集い合う空間と、その中にいるラーニング・アドバイザーという学生ではない立場からアドバイスする職員により、知的空間としての図書館の指針になると思った。
基調講演の※コメントに同じ
LA という短大にはない制度の話を聞けて良かった。短大では難しいことかもしれないが、できるところは参

考にしたいと思った。
大学院生が相談に乗ってくれるのは、学部生としては心強いし、どこの図書館でも参考にできると思った。
ラーニング・アドバイザーという方の貴重なお話を聞くことが出来とても勉強になった。
ゾーンの説明が少しわかり辛かった。（ガマジャンパーの位置など）
統計の取り方など、大いに参考になった

≪セッション１≫　テーマ：学生目線でつくる新しい図書館の形　（表 4-2-3）

セッションの数が多いと思った。学生目線でどういう図書館を希望しているかが分かった。
ビブリオ・バトルというものを初めて知った。ぜひやってみたい。カウンター日誌があると利用者と図書館スタッフの距離が縮まりそう。山口大学学生協働さんのリクエストに応える実行力は、利用者からの信頼を勝ち取れそう。他大学の活動や本の紹介などの宣伝力の強さは圧倒される。
質疑は発表ごとに行った方が良い。もっと私立大学の発表が聞きたい。発表がいずれも固い。
それぞれよく準備はできていた。ただ、活動報告、といった発表が多く、せっかくのシンポジウムのテーマが活かし切れていないように感じられた。もっとテーマに沿った発表を期待したい。
回を重ねるごとに、各大学学生さんの工夫を重ねている様子が良く伝わった。若干、「活動報告」寄りになっている感じがしたので、もっとテーマに沿った「学生目線でどんな図書館にしたいか」という発表だといいなと思う。
他大学の発表で参考にできるものが多くあった。立場が違うとその団体でやることも違っている部分や、逆に同じ活動があったりとおもしろく感じた。
時間がおして、休みの時間が減ってしまうような状態なので、もう少し時間に余裕があると良いと思う。
セッション３もそうだったが、パワーポイントのスライドショーの開始までの部分はスタッフの方が用意した方が良いのでは?と思った。
スクリーンに映っているものが見えにくかったので、もっと照明を暗くするなど工夫してほしかった
各大学の事例が非常に参考になった

≪セッション２≫　ポスター発表　（表 4-2-4）

人数が多すぎたため、全てのポスターを見ることが出来なかった。各大学の特色が分かって良かった。
活動を決定するまでの学生と職員の連携がどう進んだのかなどの検討から実施もしくは改善までの経過を知りたい。（梅光・学部生）
最後の時間があまってしまった（割とすんなり見終えてしまった）
参加できなかった館があったことは残念だった。各図書館での活動の様子や統計などが一覧でき、自由に見て回れるという企画はとてもよかった。大学ホールの壁面に設置して、もっとゆっくりポスターが見られたらもっと良かったと思う。
会場が狭い。ポスターが少ない
机は片付けておいていいのではと思った。発表者と直接コミュニケーションが取れ、実りが多かった。
興味ある内容などしっかり聞けたのでよかった
説明の方が分かりやすく、とても参考になった

≪セッション３≫　テーマ：ピアサポートがつくる新しい図書館の形　（表 4-2-5）

１校不参加になったことより、質疑の時間が十分取れた。学生からの質問がもっとあると良かった。
セッション１と同様の印象を持った。１日目と違って質疑応答が充実していたのはよかった。質問に対する質問、それに対する返答など…。発表直後に質疑応答の時間があるのはいいと思う。
体験記などが分かりやすくて良かった。

図書館バイトとの違いが分からなかった
他大学の参加見送りで、島大だけになってしまったが、丁寧に発表出来ていてよかった。時間的な余裕もあり、質疑応答も充実していた。
説明がとてもわかりやすかった。課題についても触れていたので、一緒に考えることが出来た。
セッション１～３、学生さんの発表が良かった。
１グループしかなかったのが残念。
事例をもう少し聞きたかった。

≪セッション４≫　ワールドカフェ　（表 4-2-6）

結論を出さなくてもいい話合い、正解のない話合いでとても充実していた。話し合いが自由に広がっていくので、色々な意見を聞くことが出来どんどん取り入れていきたいと思うアイディア、イベントがたくさんあった。
自分にはない発想を聞けて良かった。自分の意見に他の人が同意してくれたりこういった考えがあると言ってもらえて、ためになった。
とても楽しかった。２５分ずつでは足りないぐらい話し合いが出来た。
難しかったけど、いろんな意見を聞くことが出来, たくさん考えることが出来た
全体会はいらないかなと感じた。自分で思ったこと（ふりかえりシート）で書く時間を少し増やして、それを回収、それをまとめて公表すると良いのでは?
他の大学での案も聞き、自分の案に含めて答えることで、図書館の変化を少し考えさせられた。
初めにアイスブレイクを取り入れると、話し合いがスムーズにいくのでは？
ブログなどネット上の活動は効果的ではないことに驚いたが納得した。余所の経験を聞けるのが良い。視覚的なものが効果的。
たくさんの大学の方とまるで一緒にお話をしているかのように情報を共有することが出来非常に貴重な体験が出来た
初めてやったが、新しい気付きがたくさんあった。交流会ではなかなか話せないことについて話せたのも良かった。

≪館内見学≫　（表 4-2-7）

職員の方の案内で、いろいろと事情が聞けて良かった。もう少し時間が取れればよかった。
とても充実した図書館で、大いに参考になった。時間配分等も良かった。
閉館後の館内を開放してもらえたので、周りを気にせず見学できてよかった。
丁寧に案内してもらえた。
とてもわかりやすい案内だった。素敵な図書館だった！
説明を聞いて回るか、個人で回るか選択できたのはよかった。
学生の方が丁寧にガイドして下さり、ためになった

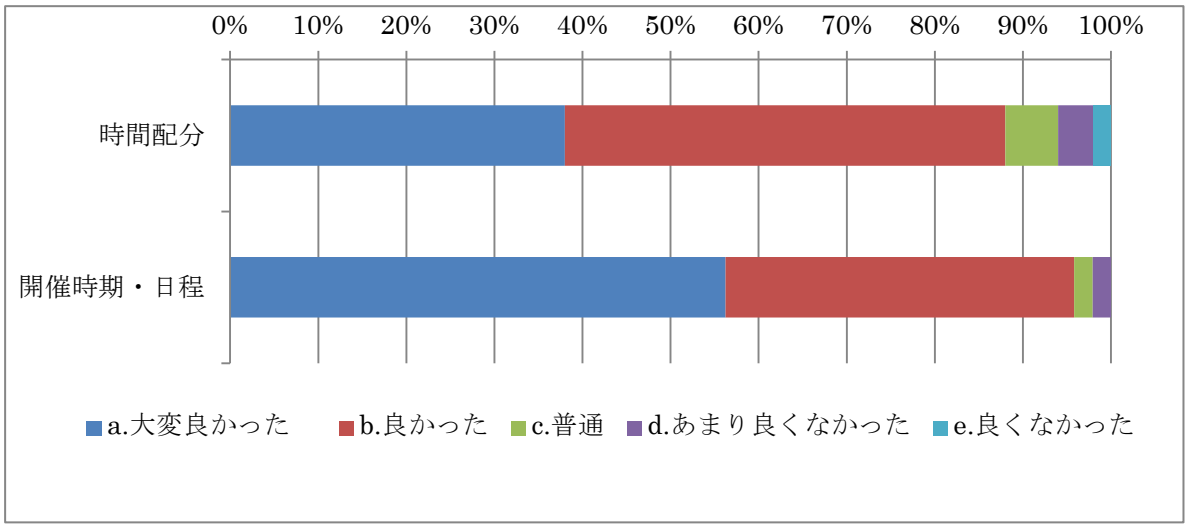
≪交流会≫　（表 4-2-8）

学生主体なので、もう少しアルコールを減らして、会費を安くしてもらいたい。
アルコールは学生中心の集まりだったので、不要だったのではないか。しらない人同士が多いので、もっと前で全体に話す人が多くても良かったかも。
質疑応答では聞けなかったことが聞けた。
楽しかった。ただ、甲殻類（カニ、エビ）のアレルギーの私には少し食事がさびしく感じた。
色々な方とお話が出来楽しかったが、進行が少し内輪向きであるように感じた。

たくさんの方に声をかけていただき、発表の講評や各大学のことについて詳しくお話が聞けたのでとても有意義な時間だった
とてもよかった。同じ大学同士で話してしまいがちなのを何とかする企画があったらいいかな（席のくじ以外で）
とても楽しかった。ただ。ミニゲームがあると、もっと盛り上がれるかなとも思う。
学部１年の学生の方も参加されており、今後を楽しみに感じます。
名刺交換はとてもよかったと思う。なかなかお話しできない方々とそれをきっかけに話を聞かせていただき、とても楽しかった。
楽しく参加させていただいた。テーブル指定のくじを引いたら、同じ大学で固まってしまったので、最初から自由にするか、ワールドカフェのように完全に指定した方がうまく混ざれると思う。
教員の方の話が参考になった。生協さん側に←割り箸、取り箸が不足していた

５　シンポジウム全体について

（図 4-2-4）



６　シンポジウム全体についての自由記述

（表 4-2-9）

基調講演に始まり、初日の夜に交流会というのは、定番のプログラム構成ですが、学生主体のシンポジウムにはそぐわない。極端だが、交流のゲームからスタートするくらいでも良いかと思う。今回の基調講演大変参考になったが、基調講演自体はこのシンポジウムには不要だと思う。
セッション１の質疑の時間が短かった。基調講演や報告が会の趣旨に合わない。
質疑応答の時間が短くて残念だった。シンポジウムの参加者は、皆さん勉強したくて来ていると思うので…。プログラムも多くて大変だが、ゆとりある時間配分にしてもらい、余れば休憩にあてる、といった予定を組んでもらえるとありがたい。
アンケート記入時間を作りましょう
とても刺激になった。これがきっかけでもっと活動内容が広がっていくと思う。
島根大さんのライムなどの広報誌はとても面白かった
ワールドカフェの２５分はあっという間だった
開催時期は９月初めで丁度良かった。学年始・学年末だと慌ただしいし、今年度から活動を始めた学生にとっても、９月になると慣れてくるころなので良かった。

7　本シンポジウムで取り上げてほしいテーマや企画、改善の提案等

（表 4-2-10）

今後の大学図書館のあり方について（地域とかかわっていくのか、専門学術に特化していくのか）研究者（教員）の利用をどう増やすのか、学生の学習支援はどうすべきかなど
せっかく twitter のハッシュタグを用意したのだから、最初から宣伝して色々な大学・学生に使ってもらった方がいいと思った。
会場で聞きたいことがあった時、誰に聞いたらよいのか分からなかった。スタッフがはっきりわかるようにしていただけると、不安なく参加することが出来る。
学生課や教務課、財務課などの事務スタッフが参加してくれるといいのではないか。
主催大学のおすすめ本紹介
各大学の図書館における学習支援のニーズに関するテーマがあれば、ぜひ聞きたい。
交流会はやはり立食形式が動きやすくて良かった。

4-3　事後アンケート

シンポジウムに参加したことが、その後の活動にどのような影響を与えたかを調べるために、シンポジウムの３カ月後に事後アンケートを行った。アンケートは参加した学生及び参加機関に対して次のとおり実施した。

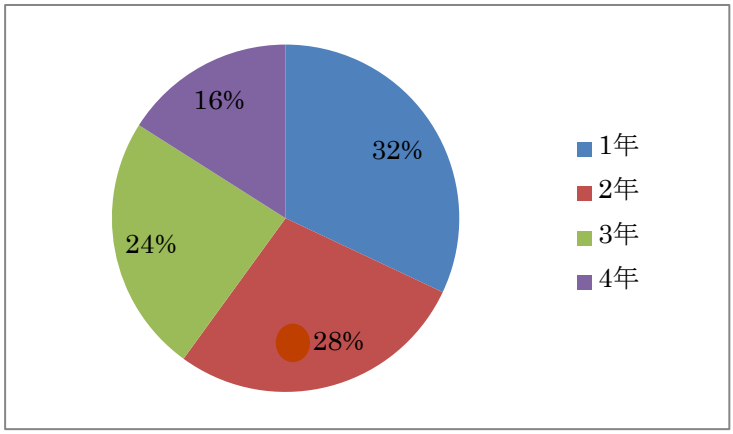
実施期間：　2013 年 11 月 28 日～2014 年 1 月 31 日
実施方法：　REAS（リアルタイム評価支援システム）を利用した Web アンケート
調査対象：１）参加した学生
　　２）参加した機関

4-3-1　参加した学生に対して

回答数：25 名（参加 60 名中）回答率 42%

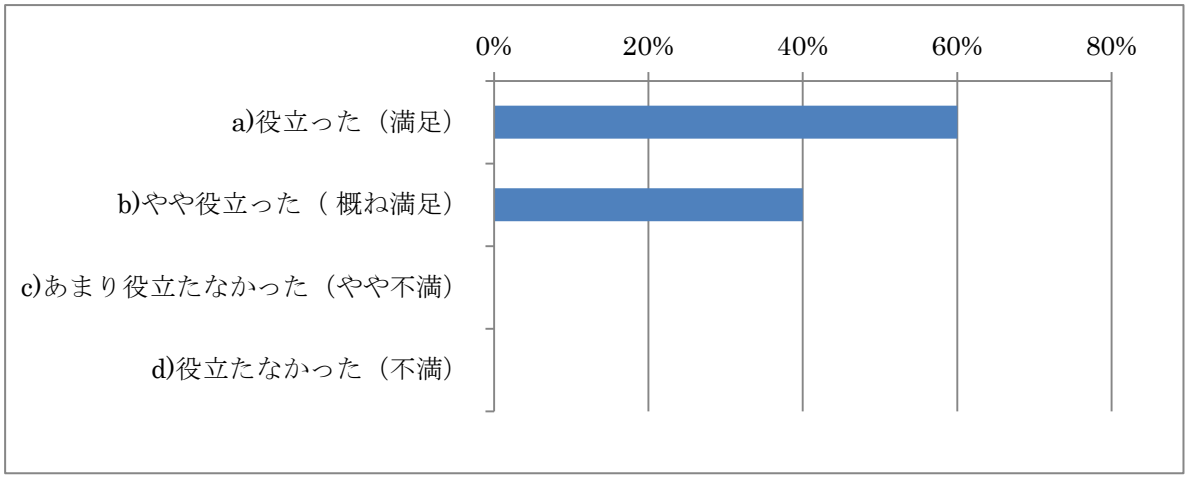
（１）回答者の学年別内訳

（図 4-3-1）



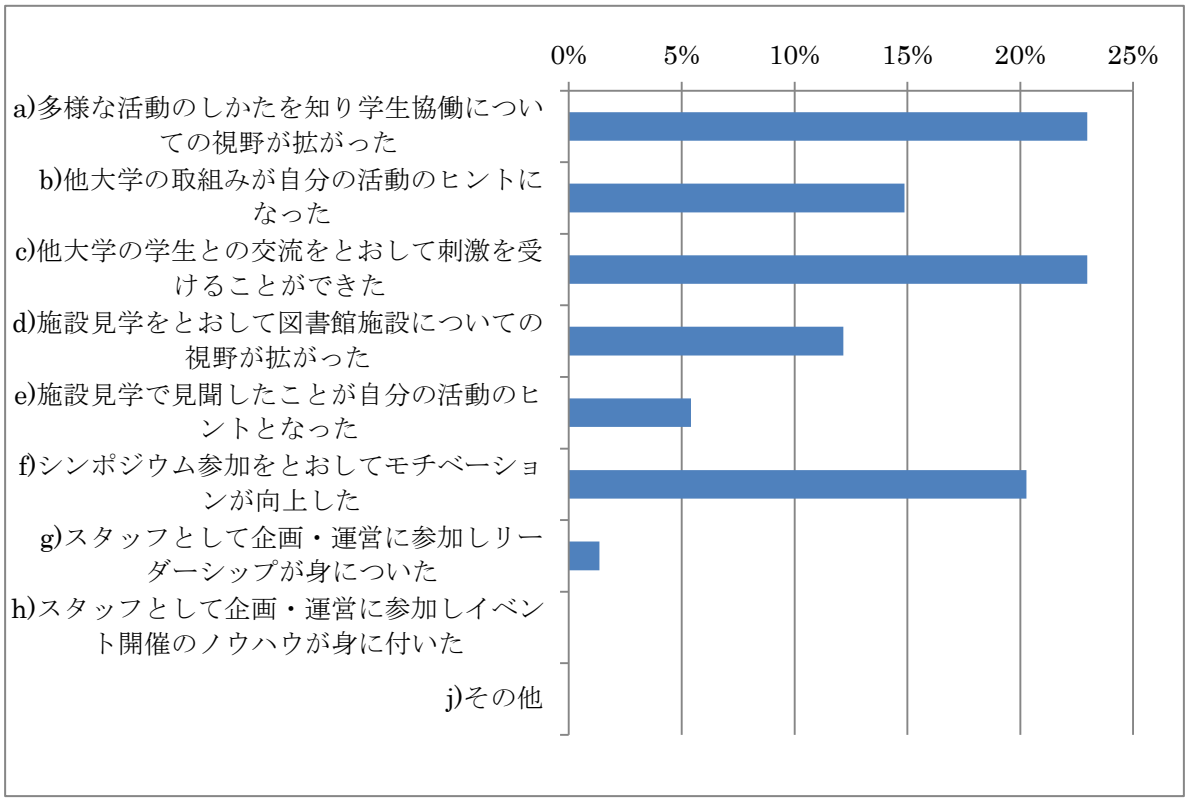
（２）シンポジウムに参加して役に立ちましたか（満足しましたか）（一つだけ）

（図 4-3-2）



（3）《（2）でa)またはb)と答えた方》
シンポジウムに参加してどのような点が役立ちましたか。（当てはまるものすべて）

（図 4-3-3）



（4）《（2）でa)またはb)と答えた方》
シンポジウムに参加して役立った点を具体的にお書きください。

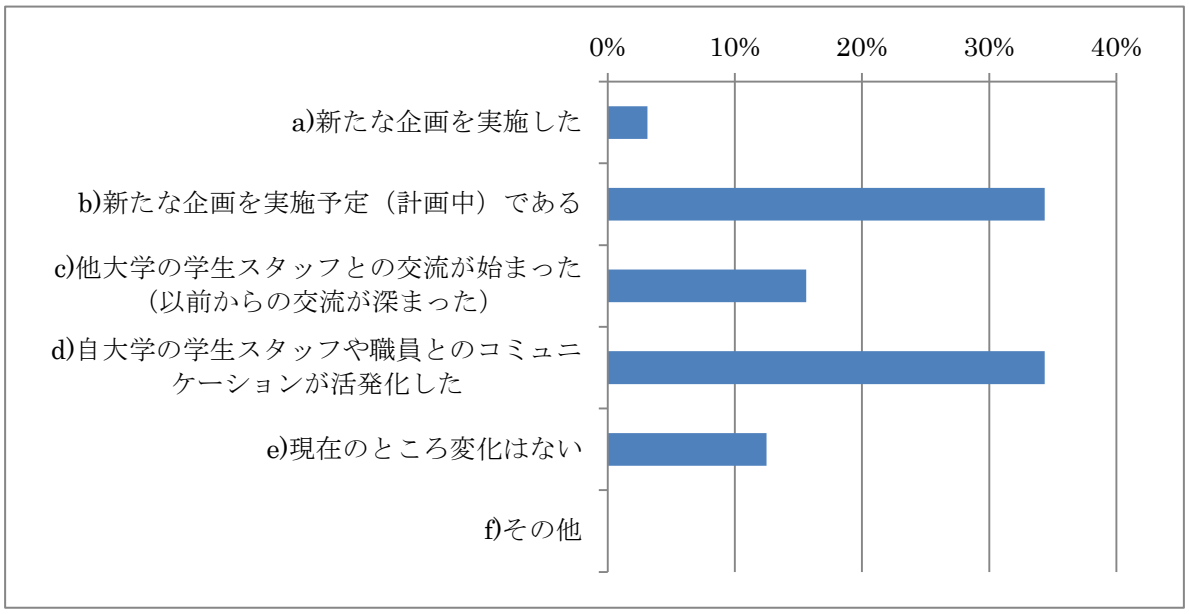
（表 4-3-1）

他校の方々のされていた取り組みで、自分達も取り入れたい、と思うことを多々見つけることができた。
利用者にどのようにしたら使いやすいと思ってもらうか、利用して良かったと思ってもらうかについて様々な大学の意見を聞き、まずは利用しやすい状況を作り出すのが良いのだとわかった。
他大学の活動について知ることが出来て、自大学で活動する上でのヒントやアイデアの助けになりました。
プレゼンテーションの準備の経験、図書館という共通のものに向かって活動する人達が自分たち以外にたくさんいると知れたこと
図書館学を学ぶものとして多くの発見を得ることが出来ました。それぞれの大学の話を聞き各大学に合った図書館があるのだと思いました。ポスターセッションやプレゼンはとてもためになりました。
他のキャンパスの図書館を見たことにより、資料だけでなく、施設にも興味を持つきっかけになった。
今回、中四国に限らず関東方面からも大学が参加下さったことで、より多くの意見や活動を見ることができた。協働で目録をとったり、ブックハンティングについて聞くことができたり有意義であった。
自分から話しかける、という行為が以前よりも気兼ねなくできるようになったと思います。初対面の相手から意見を聞き、聞いた意見を自分の頭でどういうことなのかを理解し、また他の人が意見を言いやすいように話をふる　というのが、今回のシンポジウムでとても学べたように思います。
ほかの大学にも、大学図書館をより良くしようと考えている仲間がいることが刺激になった。また、それぞれの特色ある活動を自分たちの活動のヒントにすることができた。さらに、率先して発言したり発表したり

することで度胸がついた。
今までは自分の図書館での図書委員の仕事をこなすだけでいいと思っていましたが、このシンポジウムでたくさんの大学図書館での取り組みを知り、自分のところでもイベントを企画し、運営してみたくなりました。
自分は活動経験の少なさや専攻や特殊性から，自分の活動に勝手に限界を決めていた節があった。それの考え方を変えるきっかけにはなったと思う。また、周りの使うという経験を積めたのは大きかった
「図書館は本を読む場所である」という固定観念にとらわれずに、自由な発想で図書館づくりに取り組む面白さを学びました。
自分が図書館が好きだ、ということを再認識できたことが一番大きい収穫でした。今後の活動のモチベーションとなります。また、(他の団体との交流を通して、また、シンポジウムの発表準備を通して)自分たちの活動について見つめ直すことができたこともよかったと思っています。
他の大学の図書委員の活動を聞いたり、情報交換ができてモチベーションの向上になったと思います。
他大学のプレゼンテーションなどを聞いたことで自分たちの強みや伸ばしていける部分が明らかになったので、今後の学生図書委員の活動に活かせるのではないかと考えています。
学生視点でわかりやすくするという学生図書の最初の目的を再確認することができた。一方で職員の方もそれに向けて努力しているが、現実問題難しい現状が見えてきた。
学生と図書館による共働にも、学習支援や図書館スタッフとしてのなど、様々な役割があることに気づくことができた。
他大学の活動を聞くことで、今後の自分たちの活動の参考になった。同じような物を作るのではなく、自分たちの図書館・利用者にあった工夫をしていきたい。

（5）《（2）でa)またはb)と答えた方》
シンポジウムに参加した後、あなたの活動はどう変化しましたか。(当てはまるものすべて)

(図 4-3-4)



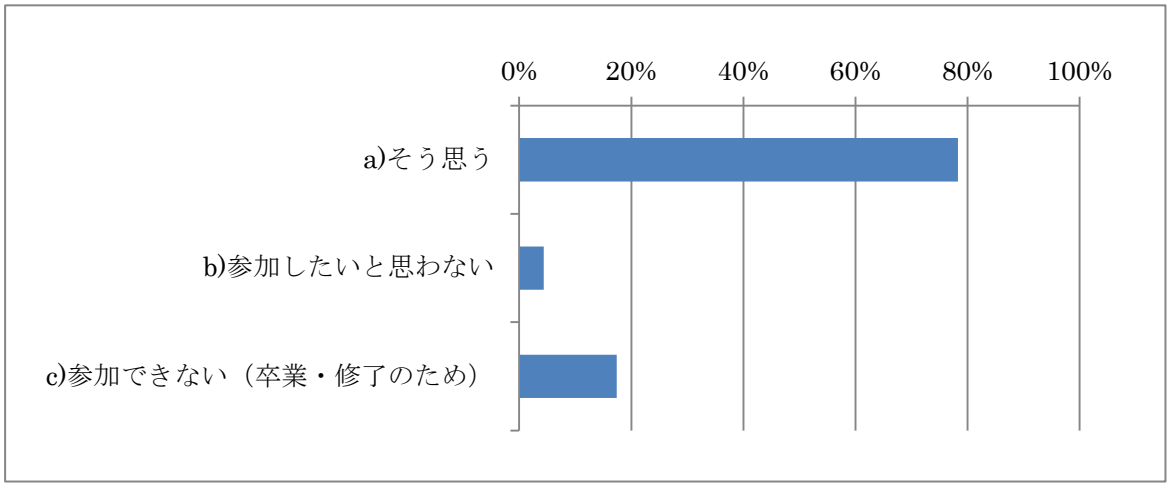
（6）《（2）で a)または b)と答えた方》シンポジウムに参加した後、あなたの活動の変化した内容を具体的にお書きください。

（表 4-3-2）

取り入れたい取り組みについて少し話した。
講義の関係などで会議に参加できなくなってしまったが、シフト中利用者がいないときには交流ノートに目を通すようになった。
図書館で企画する上でのヒントを得て企画を立てることができた。
ブログの書き込みが増えた
企画に積極的に参加するようになった。
委員会で、ブックカバー制作など、新しい取り組みが始まった。
意見や疑問を言う際、自分の中でもう一度反芻し「つまり何が言いたいのか、どうしたいのか」を明確にしてから発言するように気を付けています。第三回シンポジウムで行われたワールドカフェ企画での経験が大きかったです。
自分から、図書館について調べたり質問するようになった。
なにかできるイベントはないかインターネットなどを活用しつつ検討しています。
図書委員会への参加率が上がった。
他大学の図書委員の活動を参考に、今まで取り組んでいなかった活動を提案するようになりました。
自分達の活動振り返り、改善できるところは改善した。他大学の活動の中でやってみたい企画を話し合い、それに全体で参加することで皆のやる気がより増した。

（7）来年もシンポジウムに参加したいと思いますか。（一つだけ）

（図 4-3-5）



（8）来年のシンポジウムに参加したい／参加できない理由をお書きください。

（表 4-3-3）

今年度と同じように、自らのためになるだろうと思えるから。
卒論や研究で夏休みに時間がつくれないと思われるため。
図書館における学生協働以外の活動に時間を割く予定があるため
他大学の成功例を知ることで視野が広がり、自分の企画に活かすことが出来るからです。

他大学の学生や職員の方から多くのことを学びたいため。また、自分の大学とは違う図書館を見学したいから。
他のキャンパスの図書館をもっと見たり、図書館についての意見交換をしたいから。
次回、開催校となるためこれまでの参加とは違った視点での参加という貴重な体験ができるのではないかと思うから。
少しずつ、前回とは違う自分を感じることができるということと、普段お会いすることが難しい他大学の職員さんや学生と交流・再開できるから　というのが、次回も参加したいと思える大きな理由のひとつです。また、過去3年間参加しているから　というのもあります。
今回は初めての研修ということで、他大学の活動を見るというスタンスで参加した。なので、来年は他大学の活動を見て、次に行動を起こせるようになるため。
普段触れ合えない人々と話をし、友達になることができる。また、企画力・実行力が身に付く。
また、他大学の活動報告が聞きたいし、自分もその準備がしたいからです。
進学予定だが，進学後に活動を続けるつもりはない
卒業のため。
いつもと違う人と話すことで新しい発見や違った考え方が得られる可能性があるから
実りの多いシンポジウムだったから
楽しかったから。
私は例年シンポジウムに参加していますが、参加する度に図書委員としてだけでなく、人間的にも成長していると感じているので、来年のシンポジウムにも参加したいと考えています。
今回は1年次ということもあり、なんとなく参加しただけであまり積極的な参加ができなかったため。来年はより高い意識を持って参加するため。
他大学さんとの交流を通して自分たちの活動をさらによいものにしていきたい。また後輩たちに他大学さんの活動を見てもらいモチベーションを上げてもらいたいため。

（9）上記設問以外の点で、ご意見等があればお書きください　　(表 4-3-4)

ビデオ撮影していたのでHPから様子を見られるようにしてほしい。
山口大学から始まった第一回シンポジウムでは、自分は当時1年生だったこともあり、企画・運営には携わっていませんでした。次回開催校が山口大学に帰ってくるということで企画・運営に携わっていますが、こんなに考えることが多いのかと驚いています。山口大学今度はこう来たか　と参加してくださる皆さんが思ってくれるようなシンポジウムにできるよう、頑張っていきたいと思います。
二日目の意見しあう場をもう少し長い時間もっていただけるとよりいいかなと思います。もっとたくさん議論したかったです。
夏休み中に連絡が取れないから，実行委員は大学のアドレスを登録しないで欲しい。

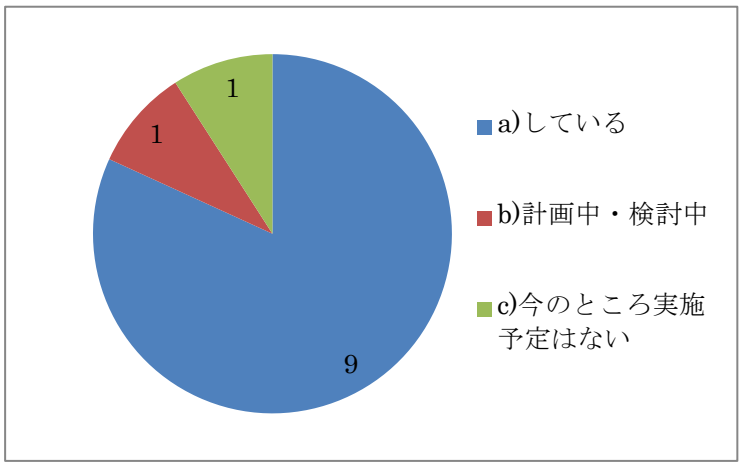
4-3-2 参加した機関に対して

回答数： 11 機関（参加 15 機関中）回答率 73%

＊以下のグラフ中の数字は機関数を示す。

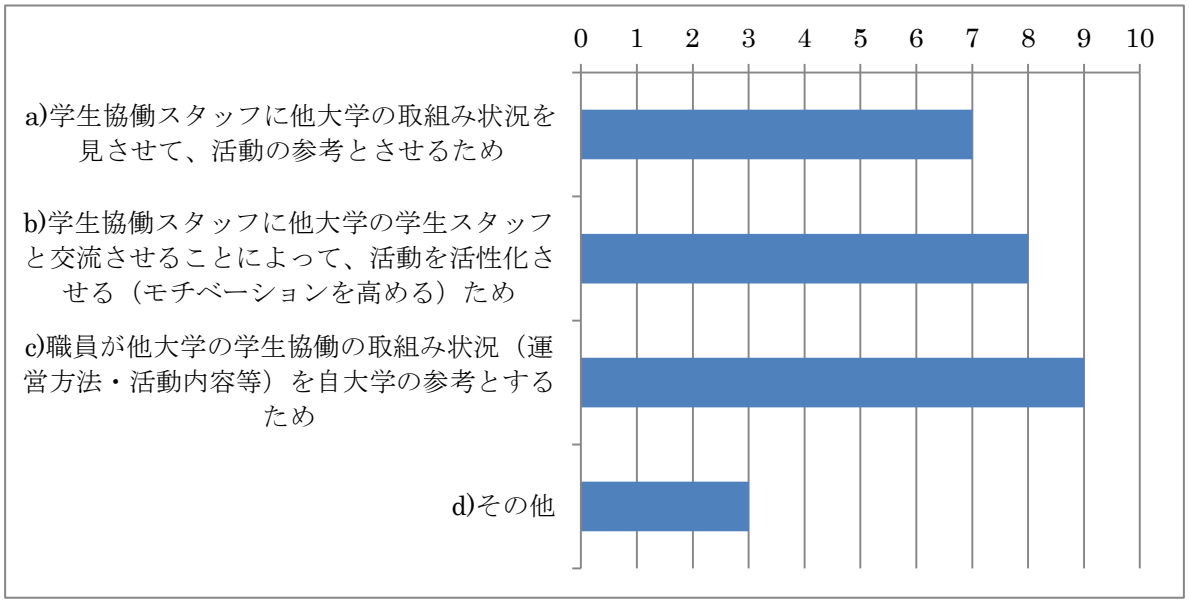
（1）貴館では、学生協働の取組みをされていますか。（一つだけ）

（図 4-3-6）



（2）シンポジウムに参加された理由（動機）は何ですか。（当てはまるものすべて）

（図 4-3-7）

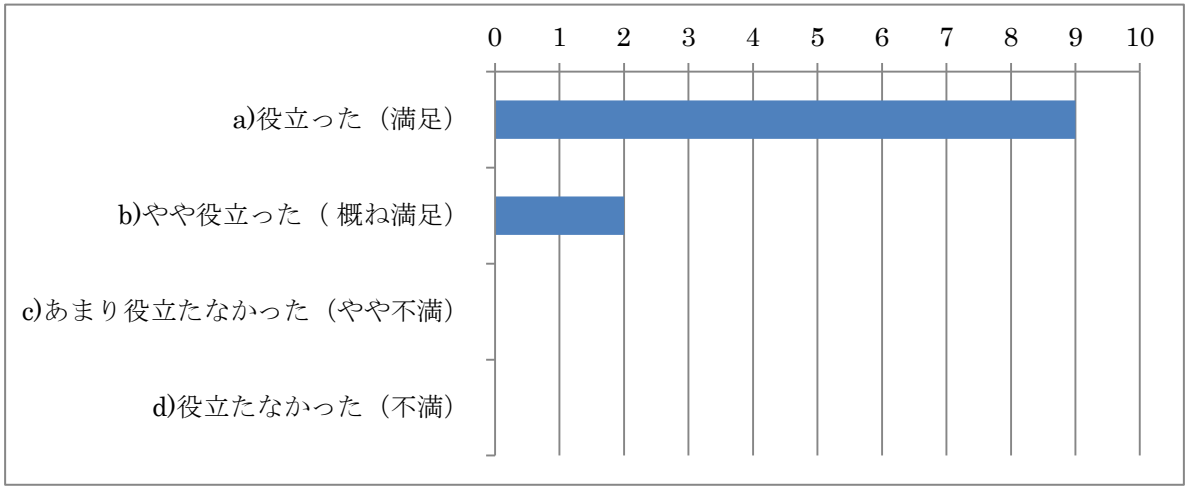


「その他」の具体的内容

- 当館の取り組みを発表するため
- もともとの主催校のひとつとして
- 学生の企画力やコミュニケーション能力を向上させるため。

（３）シンポジウムに参加して役に立ちましたか（上記（２）参加理由に挙げられた点について満足しましたか）（一つだけ）

（図 4-3-8）



（４）《（３）で a)または b)と答えた方》
シンポジウムに参加して役立った点について具体的にお書きください。

（表 4-3-5）

報告や個別談話を通じて、学生協働を開始するきっかけや運用について話を聞くことができた。 ワールド・カフェでは、図書館に対する学生の率直な意見を聞くことができた。
他大学の活発な活動を拝見し、学生たちが刺激を受けたようである
多くの事例を知ることが出来た。・文献などで知っていた活動の実情を，直接担当者から聞くことができ，大変参考になった・学生とともに参加したが，学生同士の交流も生まれ，また熱心な他大学の学生の活動の様子をみてモチベーションがあがったようだ。
図書館と学生との関わり方に、いろいろなパターンがあることが参考になった。
参加した学生にとって自分たちの活動を見つめ直す良い機会となり、職員側とも学生協働の活動の意義等を共有できたことが非常に有意義だったと思います。
学生協働による図書館改善に向けた取り組みを具体的に知ることができた。特に、細かい運営方法（学生の指導方法、学生との情報共有の方法等）や課題についても他大学の状況を知る事ができて大変有意義だった。
他大学の工夫をいろいろと学べた点。学生が他大学との交流によって刺激を受けた点。
シンポジウムの発表資料作成・発表を担当した学生にとって、大勢の前でプレゼンテーションをするという貴重な体験をすることができた。また、その他の学生も他大学の学生や職員と交流することで、コミュニケーション能力を磨き、その後も新しい出会いを求めて積極的にさまざまな活動に参加している。加えて、シンポジウムに参加したメンバーの良い刺激になり、他大学の事例(貸出用バッグなど)を参考に新しいことを自分たちも実践してみようという気運が高まった。
学生同士、学生と職員、職員同士の交流ができてよい刺激になるので
他大学で取り組んでいる活動について興味を持ち、今後の取り組みとして取り入れる方向になったため
シンポジウムに参加したことによって、学生協働スタッフの活動に対するモチベーションが向上した。

（5）《（3）でa)またはb)と答えた方》

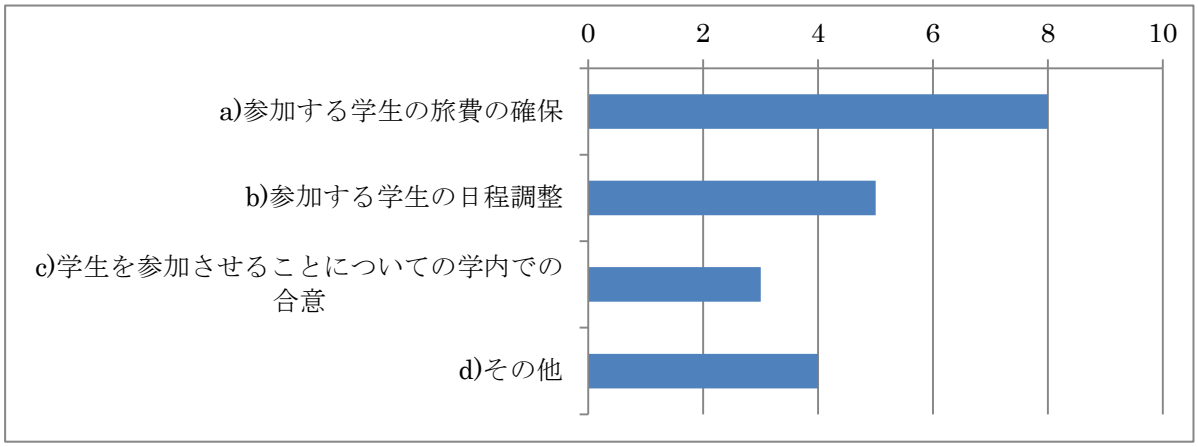
シンポジウムへの参加をきっかけとして、学生協働事業の運営に関して改善をした点、改善を計画している点などがありましたらお書きください。

（表 4-3-6）

本学ではまだ学生協働事業を実施していないが、実施時には参考にしたい。
特になし
学生図書委員の選出方法を検討中。
学生の自主性を重んじつつ、職員が適切に助言等行えるよう、基本的には学生のメンバーのみが受信していたメーリングリストに関係する職員も加わるようにした。
学生協働はまだ実施していない
ブックハンティングコーナーの見直し。請求番号インデックスの作成。アルバイトとボランティアの区別。
学生が自分たちの活動にもっと誇りを持ち、自分たちの成長を実感できるようにしたい。せっかくシンポジウムに参加したり、カウンター業務やWGを頑張って成果があっても、それを認めて褒める周りの大人や評判がなければ学生の自信につながりにくい。まずは学内の学生や教職員に活動を知ってもらい、自分たちが注目され、期待されているということを実感できるようにしたい。
残念ながら改善に至った点はありません（こちらの力不足で）
学生と職員との交流がもっと必要なのではと考え、歴代の学生図書委員全員に声をかけ交流会を行った（職員、全歴代の学生図書委員、現学生図書委員参加）
シンポジウム参加の他大学では、学生協働スタッフ間及び学生協働スタッフと職員の間のコミュニケーションが円滑にいっているように見受けられたことを参考に、「連絡ノート」を開始した。また、コミュニケーションを活発にするために、毎週１回、学生協働スタッフと職員による「ランチミーティング」を開始した。

（6）シンポジウム参加にあたっての課題と思われる点はどのようなことですか。（当てはまるものすべて）

（図 4-3-9）



「その他」の具体的内容

- 職員のみの参加なので上記３つは当てはまりませんでした。
- 関東での開催の可能性を検討する必要がある
- 学内職員の引率を誰が行うか。
- 学生の自主性をいかに尊重しながら準備を進めていくか。

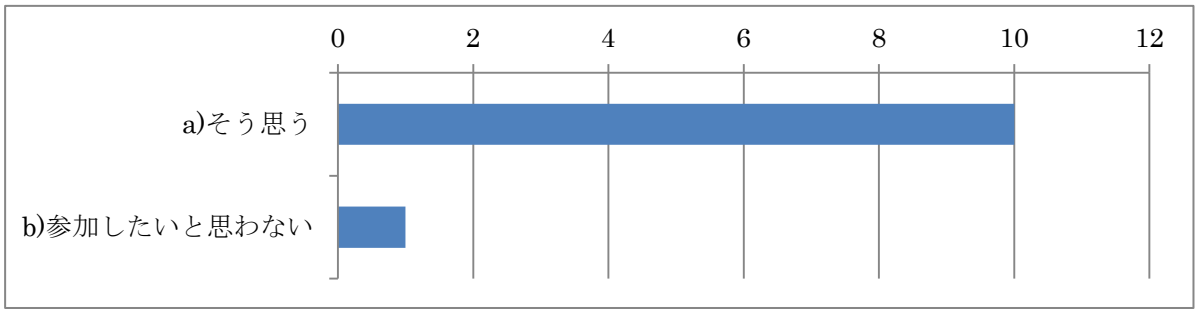
（7）シンポジウム参加にあたっての課題について、補足説明する点等があればお書きください。

（表 4-3-7）

（6）a)～c)の課題の解決策として、（6）d)に書いたとおり、関東での開催の可能性について検討する必要があると考えています。
現在、図書館スタッフ数が少なく、図書館の通常開館も行わなければならないなか、誰が引率するかが問題になった。
学内の特に教育・学生系の部署に、シンポジウムの教育的な意義を理解してもらうことが重要

（8）来年もシンポジウムに参加したいと思いますか。

（図 4-3-10）



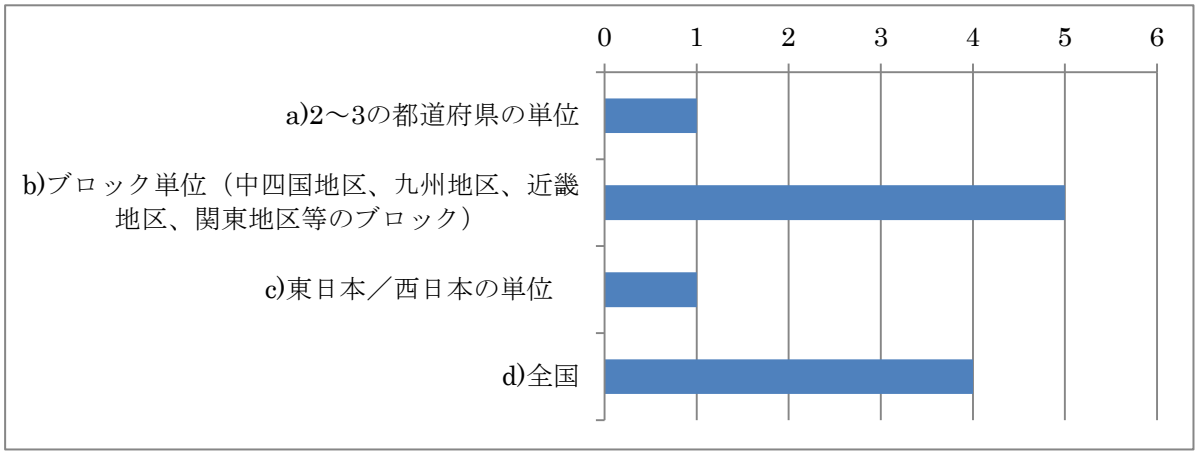
（9）参加したい／参加したいと思わない理由をお書きください。

（表 4-3-8）

本学ではまだ学生協働事業を実施していないため、実施後に改めて参加したい。
本年度の満足度が高かったため
活動のヒントがたくさんある。また，学生にとってもよい経験になる。
（7）とも関連しますが、来年もこうした機会を設け、参加したいと考えていますが、中国地区のイベントに参加させていただくか、関東で開催できるか未定です。
学生協働を実施する場合は、経費（旅費）が確保できれば参加したいと思う。
学生はもちろん、教職員にとっても勉強になるので。
主催校にもなっていますし、学ぶことも多いので
他大学の学生と交流したり、活動を知ることで刺激を受けることが出来るから

（１０）本シンポジウムは山口・島根両県の４大学によって始められ、今年度からは中国・四国地区を中心に全国に参加を呼び掛けて開催しました。シンポジウムの開催範囲を狭くすると毎年参加大学が固定化してマンネリ化する恐れがあり、反対に開催範囲を広げすぎると、開催地が遠方になった時に学生を参加させる上で旅費等の問題から参加しづらい、という問題があるかと思います。シンポジウムの開催範囲について、適当と思われる記号を選んでください。

（図 4-3-11）



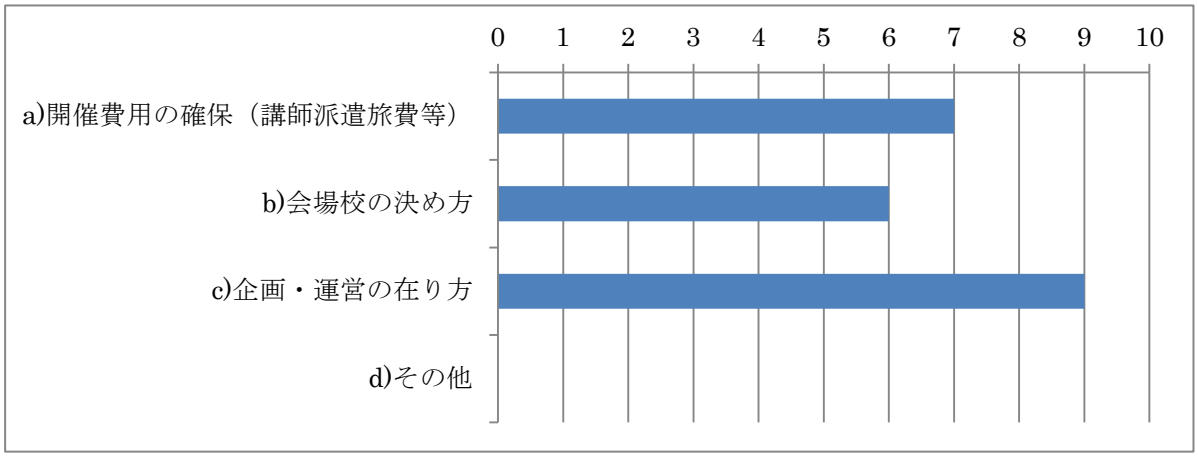
（１１）シンポジウムの開催範囲について、補足説明する点等があればお書きください（自由記述）

（表 4-3-9）

首都圏や関西圏では代替となるシンポジウムがあるようですので、本会は今のままの規模で継続するのが最適だと考える
今回、遠方からでも参加のチャンスをいただき、大変得るものが大きかったと思うので、全国の大学にそのチャンスを与えていただけるといいと思います。
企画や運営そのものは中四国でやるが、呼びかけは全国に対して行う、というようにしたらどうか。来たいところは、遠方からでも来る。来られない人は、自分たちの周辺で同じようなことを企画すればよい。中四国だけでなく、九州に呼びかけてもいいと思う（下関は中四国というよりは九州圏）。
理想としては、取り組みが全国に広がると有意義とは思いますが、設問にもあるように範囲を広げると参加が困難になり、また会場校への負担も増加することにつながるので
学生の参加のしやすさ、旅費のことを考えると、ブロック単位での開催が適当と考えられる。

（１２）シンポジウムを今後継続して実施する場合、シンポジウム開催の課題となると思われる点はどのようなことですか。（当てはまるものすべて）

（図 4-3-12）



（１３）シンポジウムを今後継続して実施する場合の課題について、補足説明があればお書きください。

（表 4-3-10）

参加する学生にとっては、ほとんどが初めての参加になるため有意義だと思います。しかし、図書館員から見ると毎年開催する必要性については、疑問もあるのではないでしょうか。又、大学の規模・学部構成などによって活動内容に大きな違いがあるようですので、全体会と分科会に分けるなどの運営の工夫も必要と思います。
スタッフ数からいって、本学が会場を引き受けるのは困難。となると、一部の大学にいつも会場が固定してしまうのではないか。交流が進んだ結果、活動がどの大学も似通ってしまうという問題も。
会場校では講師派遣旅費や会議開催に係る諸経費のための予算の確保が必要であり、経常的な予算支援が望まれる。

（１４）上記設問以外の点で、ご意見等があればお書きください。

（表 4-3-11）

学生主体で運営されたシンポジウムで、大変新鮮でした。
１日目の夜の懇親会が、より学生向けになれば良いと考える。アルコールはない方が良いし、会費も抑えられるだけ抑えてもらいたい。
学生ＦＤサミットなど全国的な会議をやっているところがあると思うが，そういった団体の運営方法などが参考になるのではないかと思います。
学生協働は、全国的に取り組みが広がっており、学生同士、職員同士、学生と職員とが意見を出し合える場はとても意義があると考えています。今後とも、よろしくお願いいたします。
規模が大きくなればなるほど、各大学の持ち時間が少なくなったり大勢の参加者がいても交流できる範囲が限られたりといった弊害も発生しますし、どうしても職員目線というか型にはまったシンポジウムになってしまう気がしています。せっかくの学生協働の交流シンポジウムなので、学生が携われる範囲にとどめておいた方が満足度の高いものになるのではないでしょうか。

学生協働交流シンポジウム（第３回）実行委員会　委員

所属大学	職員	学生
山口大学	森實　彩乃	上村　希世美
		金城　彩奈
梅光学院大学	野口　喜美子	高崎　美奈子
	佐藤　睦子	村田　恵理
島根県立大学 浜田キャンパス	森原　久美子	宮崎　彩
	網　　裕美	深山　竣介
	森本　隆裕	
島根県立大学 松江キャンパス	北井　由香	小豆　沙織
		山中　多希子
	馬庭　佳緒里	青笹　実香
		金築　晶
		後藤　絵理
島根県立大学 出雲キャンパス	二瀬　恵子	
島根大学	昌子　喜信	富室　崇志
	山崎　月子	乗富　一輝
	金子　尚登	西　　秀美
	小林　奈緒子	

大学図書館の学生協働交流シンポジウム（第３回）報告書

発行日　　2014（平成 26）年 3 月 31 日
編　集　　学生協働交流シンポジウム実行委員会
執　筆　　昌子喜信（島根大学附属図書館　企画・整備グループ）
発　行　　学生協働交流シンポジウム実行委員会
　　（事務局：　島根大学附属図書館）
印　刷　　今井印刷株式会社